

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文	日本文	夜・通信	12	10	16	38	13	
	言語表現	夜・通信		2	24	38	13	
	歴史文化	夜・通信		10	12	34	13	
国際英語	国際英語学科 国際英語キャリア専攻	夜・通信		4	12	28	13	
	国際英語学科 英語圏文化専攻	夜・通信		6	6	24	13	
	国際英語学科 国際学専攻	夜・通信		4	20	36	13	
国際教養	国際教養	夜・通信		0	16	28	13	
心理	心理	夜・通信		0	38	50	13	
現代社会	現代社会学科 社会学専攻	夜・通信		62	32	106	13	
	現代社会学科 コミュニティ学専攻	夜・通信		86	12	110	13	
	現代社会学科 社会福祉学専攻	夜・通信		66	34	112	13	
	現代社会学科 国際文化専攻	夜・通信		58	34	104	13	
法	法律	夜・通信	0	44	56	13		

総合政策	総合政策	夜・通信	0	18	30	13	
経済	経済	夜・通信	0	24	36	13	
経営	経営	夜・通信	0	42	54	13	
工	機械システム工	夜・通信	4	19	35	13	
	電気電子工	夜・通信	0	16	28	13	
	情報工	夜・通信	0	20	32	13	
	メディア工	夜・通信	0	14	26	13	
スポーツ科	スポーツ教育	夜・通信	19	20	51	13	
	競技スポーツ科	夜・通信	30	5	47	13	
	スポーツ健康科	夜・通信	21	21	54	13	
<p>(備考)</p> <p>国際英語学部英米文化学科および情報理工学部情報システム工学科は2019年度において開設されているが、学生募集停止中であって、かつ、修業年限で卒業できないことが確定した支援対象者となり得ない留年生のみが在籍する学部等であるため、記載していない。</p> <p>また国際英語学部国際英語学科は2014年度に、現代社会学部現代社会学科は2015年度に改組し、それぞれ専攻を置いたところ、旧課程に在籍する学生が存在するが、同様に修業年限で卒業できないことが確定した支援対象者となり得ない留年生のみが在籍している状況のため記載していない。</p>							

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ（以下 URL）にて「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」を公開
https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/academics/jyugyou_kamoku.pdf
 該当科目のシラバス内容に関しては以下 URL から閲覧可能
<https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.umemura.ac.jp/information/a4.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	特定非営利活動法人理事 長	2017.10.1 ～ 2021.9.30	広報
非常勤	学校法人理事長	2017.10.1 ～ 2021.9.30	法務
(備考) 学外者である理事は3名おり、上記の他、非常勤理事1名在職している（現職：会社代表取締役会長、任期：2019.1.24～2021.9.30）。			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○授業計画 (シラバス) の作成過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学組織である「教育推進センター」委員会において「シラバス入稿時の留意事項」(以下 URL 参照)の作成・学内承認・学内周知を実施 その後、紙媒体の「シラバス入稿時の留意事項」を全教員に対して配布し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項に関する注意点などを周知 2. 各学部教授会にて「シラバス入稿時の留意事項」をもとに、シラバスの作成と活用に関する FD (シラバスの趣旨・留意事項等の確認、内容充実や活用方法に関する意見交換など)を実施 3. シラバス入稿内容の適切性検証や、その充実を目的に、学部委員によるシラバス第三者チェックを全科目を対象に実施 4. 3月中旬にシラバスをホームページ上(以下 URL 参照)にて公開 <p><input type="checkbox"/> 中京大学「シラバス入稿時の留意事項」 https://www.chukyo-u.ac.jp/on_campus2/kyomu/pdf_2019/syllabus.pdf</p> <p><input type="checkbox"/> 中京大学シラバス https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus</p> <p>○授業計画作成・公表時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業計画 (シラバス) 作成…12月～1月 ※科目担当者が入稿した内容の第三者チェックを2月に実施 ・ 授業計画 (シラバス) 公表…3月中旬頃 (履修登録の約2週間前) 	
授業計画書の公表方法	<p>インターネットを利用し、対象者を特定せず広く一般に示している。(以下 URL)</p> <p>https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本学は、学則において成績評価基準を規定している。開講科目すべてのシラバスには、「学修到達目標」「成績評価方法・基準」「授業方法」「授業計画」等を明示しており、各教員は記述内容に基づいた授業を行い、客観的な方法と基準により各学生の学修成果を評価している。</p> <p>さらに、全学的には学生の学習成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準、評価の実施方法などについて定めたアセスメントポリシーを策定・公開している。</p> <p>□中京大学「アセスメントポリシー」 https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/assessment-polisy.pdf</p> <p>□成績評価基準 https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/academics/risyu_12_15.pdf</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○GPA 指標の算出方法・目的</p> <p>《GPA 算出式》</p> $GPA = \frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (D や F の単位数も含む)}}$ <p>《GPA 導入の目的》</p> <p>①大学教育における成績評価基準の標準化 ②厳格な成績評価による教育効果の向上</p> <p>○GPA の適切な実施方法</p> <p>①セメスターごとの GPA を自動で算出し、学生に開示する個人の成績表に掲載している。</p> <p>②GPA の算定方法については、学生便覧やホームページ上（以下参照）で公開し、周知を行っている。 https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/academics/risyu_12_15.pdf</p> <p>③各学部・学年ごとの成績分布表（GPA 分布）を作成し、機関として状況の把握に努めるとともに、学生に対して学内ポータルシステムを通じて公表している。（全学部）</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>GPA の算定方法については、学生便覧やホームページ上（以下参照）で公開し、周知を行っている。 https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/pdf/academics/risyu_12_15.pdf</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○卒業の認定に関する方針の具体的な内容</p> <p>卒業の認定に関する方針は、全学ディプロマポリシーを定めるとともに、すべての学部学科（教育プログラムごと）でそれぞれディプロマポリシーを定め、公表（以下 URL）している。</p> <p><input type="checkbox"/> 中京大学全学ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/policy/dp/dp01.pdf</p> <p><input type="checkbox"/> 各学部学科ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html</p> <p>○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況</p> <p>各学部において卒業要件（卒業所要単位数、その他要件）を学生便覧にて学生に開示している。卒業認定にあたり、学生の修得単位数等を踏まえ、各学部において卒業判定会議等を実施し、卒業可否の原案を審議する。最終的には学長が卒業判定の認定を行う。また、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度にガイドラインに基づき全学的に DP の見直しを行った。 ・学部ディプロマポリシーで示した学修成果の項目のうち、各科目がどの要素と関連するのかを示したカリキュラムマップを策定し、公表している。卒業生の単位修得科目の集計と分析を行うことで、学修成果と各科目との関係、ひいてはカリキュラムマップの適切性検証を実施している。 <p><input type="checkbox"/> カリキュラムマップ https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>中京大学ホームページ上で公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 中京大学全学ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/policy/dp/dp01.pdf</p> <p><input type="checkbox"/> 各学部学科ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	中京大学
設置者名	学校法人梅村学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
財産目録	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
事業報告書	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html
監事による監査報告(書)	https://www.umemura.ac.jp/information/a6.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.chukyo-u.ac.jp/information/data/b3.html#a2

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>文学部日本文学科、言語表現学科及び歴史文化学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 日本文学科は、研究目標を世界文学における日本文学の持つ普遍性及び特殊性について実証的に考究することに置き、教育目標を日本文学科に学ぶ学生の自己実現をサポートし、伝統的な価値観を踏まえつつ多様化する社会に建設的に関わることのできる有為な人材を養成することに置く。これらの目標実現のために、言語表現学科及び歴史文化学科との連携の下、古典籍を含む資料の収集を段階的に図り、また、文学事跡の实地踏査を行う等実物に即した教育研究活動の実践に努める。</p> <p>(2) 言語表現学科は、高度情報化社会における日本語による多様な表現活動及び日本語文化全般を研究対象とする。現代メディアの状況を踏まえた「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を通して、情報を正確に理解した上で、的確な美しい日本語で自身の考え又は思いを表現・発信できる能力の養成を教育上の目的とし、日本文学科及び歴史文化学科との連携の下、その能力を高度に発揮して表現活動の第一線で活躍できる専門家を始め、優れた日本語運用能力・コミュニケーション能力によって社会に貢献できる人材を養成する。</p> <p>(3) 歴史文化学科は、日本史学及び日本民俗学を中心とし、かつ、宗教学、社会学、地理学等のうち歴史的なアプローチを行う上で隣接する学問分野を研究対象とする。日本の歴史について正確な知識を有し、地域の歴史遺産及び人々の営みの歴史的多様性に敬意を抱くことを教育上の目的とし、歴史の知識を糧としつつ現代の諸課題に実証的態度で向き合い、心豊かな社会の建設に貢献できる人材を養成する。そのため、日本文学科及び言語表現学科との連携の下、史料調査、实地踏査等実物に即した教育研究活動の実践に努める。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>文学部日本文学科 学位授与の方針</p> <p>文学部日本文学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。</p> <p>＜学修成果（教育目標）＞</p> <ol style="list-style-type: none">1. 日本文学の歴史の変遷について理解し、説明することができる。2. 日本文学と世界の他地域の文学との関わりについて理解し、説明することができる。3. 日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を修得し、上代から現代までの各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。4. 日本文化の諸相について理解し、説明することができる。5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。 <p>文学部言語表現学科 学位授与の方針</p> <p>文学部言語表現学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。</p> <p>＜学修成果（教育目標）＞</p> <ol style="list-style-type: none">1. 日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解し、説明することが

できる。

2. 「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
3. 言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
4. 従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画等、言語による表現を伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達成することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

文学部歴史文化学科 学位授与の方針

文学部歴史文化学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（文学）を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。
2. 古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。
3. 日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。
4. 地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の下にその保存や活用に貢献できる。
5. 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
6. 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できるための資質を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

文学部日本文学科 教育課程編成・実施の方針

文学部日本文学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部日本文学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

<専門教育課程（学部固有科目）の構成>

1. 卒業所要単位は124単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。
 - ①日本文学及び日本語学を学ぶ上での基礎を身につける科目（基礎科目）として、「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「比較文学Ⅰ・Ⅱ」を配置します。
 - ②基幹科目として、「日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ」「上代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中古文学を読むⅠ・Ⅱ」「中世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ」「現代文学Ⅰ・Ⅱ」「児童文学」「大衆文学」「外国文学の世界」等を配置します。
 - ③展開科目として、「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「中国文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史」「演劇の世界」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」「中国文学を読むⅢ・Ⅳ」「日本語日本文学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」「大衆文化」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「メディア史」「芸能文化」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「レトリック論」「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「民俗芸能論」「文化人類学」「日本文化史」「古文書読解入門」「有職故実」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「コミュニケーション

「コンピュート・スキルⅠ・Ⅱ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」「仕事のコミュニケーション」「インターンシップ」「海外留学科目」「短期海外研修」等を配置します。

④演習科目として「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。
2. 本学科では、1年次に基礎科目16単位を履修し、2年次に基幹科目のうちの選択必修科目から12単位以上と、演習科目である「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を履修し、3・4年次に卒業研究の執筆へと導く演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」8単位を履修するという形で、段階的な学びができるようなカリキュラムを組んでいます。また、隣接する言語表現学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位としてそれぞれ8単位まで履修することができます。

3. 本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

①「郷土の文学」：東海地方出身の作家や、東海地方にゆかりのある文学作品について理解することにより、歴史を通じて形成された愛知県の文化の特質等について考えます。

②「図書の世界」：中京大学図書館が所蔵する、この地区の大学では質量とも屈指の和書等の実物を示し、見て、さわることにより、昔の書物に対する理解を深めます。

③「短詩型文学の世界」：短歌、俳句という世界に例のない定型詩の共通点と相違点を学び、海外の人にも説明できるような知識を身につけます。

4. 「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。

① 日本文学の歴史の変遷について理解し、説明することができる。

「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「日本文学入門Ⅱ」等

② 日本文学と世界の他地域の文学との関わりについて理解し、説明することができる。

「比較文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「中国文学Ⅰ・Ⅱ」「中国文学史」「外国文学の世界」「演劇の世界」「翻訳論」等

③ 日本語の口語や文語に関する正しい知識や文字を修得し、上代から現代まで各時代の文学作品を正しく読み解くことができる。

「日本文学入門Ⅰ」「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語史・日本語学史Ⅰ・Ⅱ」「上代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中古文学を読むⅠ・Ⅱ」「中世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近世文学を読むⅠ・Ⅱ」「近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「現代文学Ⅰ・Ⅱ」「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」等

④ 日本文化の諸相について理解し、説明することができる。

「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書論」「書学」「児童文学」「大衆文学」「日本語日本文学特論Ⅱ」「民俗芸能論」「文化人類学」「日本文化史」「有職故実」等

⑤ 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。

「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コンピュータで学ぶ文章作法」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」等

⑥ 卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

「日本語日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「コンピュータ活用技術」「図書館概論」「国語教材論Ⅰ・Ⅱ」等

文学部言語表現学科 教育課程編成・実施の方針

文学部言語表現学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部言語表現学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

<専門教育課程（学部固有科目）の構成>

1. 卒業所要単位は124単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①言語による表現全般を研究対象とする言語表現学という学問を総括的に捉え、基礎科目として、「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本語学入門Ⅰ・Ⅱ」「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」を配置します。

②基幹科目として、以下の科目を配置します。

- ②-1 日本語及び日本語文化に関する科目：「レトリック論」「文字の文化史」「社会生活とことば」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」「地域とことばⅠ・Ⅱ」
- ②-2 コミュニケーション文化に関する科目：「メディア・リテラシー」「実践話術」「広告文化論」「芸能文化」「身体表現」「広告の現場」「映像文化」「議論の技術」「コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」
- ②-3 書物・読書文化に関する科目：「編集の実際」「読書の文化史」「出版の文化史」「翻訳論」「情報の倫理」「創作Ⅰ・Ⅱ」
- ③各自の興味・関心をいっそう深めるために自由に履修できる展開科目として、以下の科目を配置します。
- ③-1 日本語文化に関する科目：「日本語文法Ⅰ・Ⅱ」「日本語音声学Ⅰ・Ⅱ」「情報技術とことば」「書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「書道史Ⅰ・Ⅱ」「書論」「書学」「日本文化史」「民俗芸能論」
- ③-2 コミュニケーション文化に関する科目：「メディア史」「コンピュータ活用技術」「コンピュータで学ぶ文章作法」「ジャーナリズム論」「広告制作」「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「映像文化」「芸能とことば」「芸能文化」「話芸の世界」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」
- ③-3 書物・読書文化に関する科目：「大衆文化」「日本文学入門Ⅰ・Ⅱ」「日本文学史Ⅰ・Ⅱ」「上代・中古・中世・近世・近代文学を読むⅠ・Ⅱ」「中国文学を読むⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「図書館概論」「図書館情報資源概論」
- ④①～③の科目で養った能力を活かして、卒業研究を完成させるための演習科目として、「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置します。
2. 本学科では、次のように段階的な学びが行えるようカリキュラムを組んでいます。1年次に基礎科目（16単位）を履修し、2年次に基幹科目の選択必修科目から12単位以上と、演習科目である「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（4単位）を履修し、これを学問的土台とします。以上の土台固めをしながら、自身の卒業研究テーマをにらんで展開科目を履修し、3・4年次に演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」（8単位）を履修し、卒業研究を完成させます。また、隣接する日本文学科及び歴史文化学科の科目も卒業所要単位として合計8単位まで算入することができます。
3. 本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。
- ①「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」：テレビ局で活躍する現役のアナウンサーによる講義と実技によって、「会話力」「話す力」を身につけ、言語の表現力を養う。
- ②「芸能とことば」：日本の伝統芸能である「狂言」を講義と実技によって体感する経験が得られ、日本文化に対する奥深い理解を身につける。
- ③「広告文化論」：広告に使われるキャッチコピーを細かく分析することにより、言語表現の様々な様相を考え、広告の文化的要因を明らかにする。
4. 「学修成果」と科目との関係は、以下のとおりです。
- ① 日本語及び日本語文化の諸側面に関する基礎的な知識を有し、また理解している。
「言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ」「現代日本語論Ⅰ・Ⅱ」等
- ② 「聞く・読む・書く・話す」技術の錬磨を経て、情報を正確に理解し、的確な日本語で自身の考えや思いを表現・発信することができる。
「会話技術論Ⅰ・Ⅱ」「文章技術論Ⅰ・Ⅱ」「実践話術」「レトリック論」「議論の技術」等
- ③ 言語によるすべての表現に対して社会的・倫理的な適否を的確に判断することができる。
「ジャーナリズム論」「メディア・リテラシー」「編集の実際」「社会生活とことば」「翻訳論」「情報の倫理」等
- ④ 従来の文学のジャンルを超え、絵本、マンガ、映画等、言語による表現を伴う幅広い分野について、それらを学問的対象として捉え、客観的・科学的に観察・分析することができる。
「読書の文化史」「文字の文化史」「出版の文化史」等
- ⑤ 日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。
「国語表現法Ⅰ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

等

⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

「専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「図書館概論」等

文学部歴史文化学科 教育課程編成・実施の方針

文学部歴史文化学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

文学部歴史文化学科のカリキュラムは、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く全学共通科目と、学部固有科目で構成されます。

<専門教育課程（学部固有科目）の構成>

1. 卒業所要単位は124単位であり、学部固有科目は以下の科目群に分けて編成します。

①学科「基礎科目」群を置き、学科専門教育への導入的科目として、以下の科目を配置しています。

①-1 歴史文化学科で学ぶ内容の理解及び学びと社会との接点への関心に向くための「入門科目」として「歴史文化学入門」「古文書読解入門」「現代と歴史文化」を配置。

①-2 学科の中心的学問分野である日本史学・日本民俗学の各時代概説・概論として「古代中世史概説」「近世史概説」「近現代史概説」「民俗学概論」及び隣接分野である宗教学・外国史・社会学の概説・概論として「宗教学概論」「東洋史概説」「西洋史概説」「社会学概論」を配置。

②学科「基幹科目」群を置き、教育研究の到達目標に向けての核心とし、以下の科目を配置しています。

②-1 各時代・分野の資史料を正確に読解する能力を養う資史料講読科目として「古代史料講読」「中世史料講読」「織豊期史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近世史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近代史料講読Ⅰ・Ⅱ」「現代史料講読」「宗教史料講読Ⅰ・Ⅱ」「民俗資料講読Ⅰ・Ⅱ」を配置。

②-2 専門研究を支えるべく、より細分化された諸学問の基本知識を得るための科目として「日本思想史」「祭祀と信仰」「古文書学」及び資料調査の実践法を学ぶ諸科目として「標準古文書読解法」「金石文調査法」を配置。

②-3 各時代、民俗学・宗教史上の特定のテーマについて先端的研究成果を学ぶ科目として「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「近世史特論」「近代史特論」「郷土の民俗特論」「宗教文化特論」を配置。

②-4 演習科目として「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」を配置し、Ⅰ・Ⅱ一貫した教員指導の下、Ⅰにおいては他者にもその意義が理解可能な研究課題を発見させ、Ⅱにおいてはその課題に即して歴史像を構築し他者に示せるよう導く。成果物として卒業研究（論文）を完成させる。

③学科「展開科目」群を置き、卒業研究の課題又は卒業後の進路に対応して必要となる科目を、学生自ら目的意識を持って選択履修してキャリア形成に資することができるようにし、以下の科目を配置しています。

③-1 各時代・分野にまたがるテーマを扱う諸科目

③-2 応用的テーマを扱う諸科目

③-3 コミュニケーション能力を修得させる諸科目

2. 本学科では、段階的に学びを達成できるよう次のようにカリキュラムを組み、必修としています。

1年次では、学科専門教育への無理のない導入として「入門科目」を含めた「基礎科目」16単位を履修し、2年次で「基幹科目」のうちの選択必修科目から12単位以上と演習科目である「踏査基礎演習」4単位を履修し、今後の専門研究に向けて各種能力を培います。3・4年次では演習科目「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」8単位を履修し、卒業研究（論文）を完成させます。

3. 本学科カリキュラムの中に、以下の特色を持つ科目を設置します。

①「現代と歴史文化」

歴史学修・研究活動、歴史遺産・歴史的由緒を生かしたまちづくり、観光創出等の実例を知

ることによって、歴史文化にかかわるこんにちにおける活動の広がり・諸相を知り、問題のありかと今後の新たな展開の可能性を考察します。

②「金石文調査法」

紙以外のさまざまな伝来品歴史資料の各種存在を知り、それらの調査・記録の方法を学びます。授業では、学生が実際に石塔から拓本を採取します。これら歴史資料を調査・記録するにあたって必要な基本知識を修得します。

③「踏査基礎演習」

特定の地域を対象とし、学生自身が踏査しつつ、当該地域の歴史文化に関する情報を集め、論理的思考に基づいてまとめ、ゼミ合同発表会において報告します。

4. 「学修成果」と科目との関係は以下のとおりです。

①歴史資料の特性や扱い方に関する知識を有し、資料を解読して情報を正しく接合させ、合理的推理に基づいて歴史像を構築することができる。

「古文書読解入門」「踏査基礎演習」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「古代史料講読」「中世史料講読」「織豊期史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近世史料講読Ⅰ・Ⅱ」「近代史料講読Ⅰ・Ⅱ」「現代史料講読」「宗教史料講読Ⅰ・Ⅱ」「民俗資料講読Ⅰ・Ⅱ」「考古学調査法」「古文書学」「標準古文書読解法」「金石文調査法」

②古代から近現代に至る日本の歴史文化の変遷について、正確に理解し、説明することができる。

「古代中世史概説」「近世史概説」「近現代史概説」「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「近世史特論」「近代史特論」

③日本の伝統的な習俗や社会事象について、その起源や意義を理解し、説明することができる。

「民俗学概論」「祭祀と信仰」「郷土の民俗特論」「文化人類学」「民俗芸能論」

④地域の伝統的文化遺産や歴史的個性に深い敬意を持ち、的確な判断の下にその保存や活用に貢献できる。

「標準古文書読解法」「金石文調査法」「尾張三河戦国史論」「尾張三河と織豊政権」「郷土の民俗特論」「戦国織豊城館論」「歴史資料と博物館」「博物館概論」「地域と歴史文化情報」「図書館概論」「図書館情報資源概論」

⑤日本語で表現する機会においては、他者と良好な関係を築き、協働して目的を達することができる。

「踏査基礎演習」「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「コミュニケーション・スキルⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

⑥卒業後も、次代への継承を意識しつつ、自ら種々のテーマを設定し、真理を探究するために自律的・創造的に研究・調査できる。

「卒業研究ゼミナールⅠ・Ⅱ」「仕事のコミュニケーション」

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

文学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を、広く求めています。

<入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度>

〔知識・技能〕

文学部での学びは、「社会が必要とする<日本文学、言語表現及び歴史文化>の課題に対する問題意識を持ち、その解決方法を探る」ということであり、そのための広い視野と知識が求められます。その基本となる教科を、高等学校段階においてしっかりと学習しておくことが大切です。

・「日本文学、言語表現及び歴史文化」を学ぶには、同方面に関する幅広い知識と的確な理解力と柔軟な思考力が必要になります。そのためには、豊かな読書体験を積んでおかなければなりません。文芸作品はもちろん、現代の新聞や内外の歴史書等もしっかり読む習慣をつけてください。高等学校課程における「国語総合」「現代文」「日本史」「世界史」「現代社会」「政

治・経済」等の学習が、強く望まれます。

- ・現代に必要とされる日本語能力は、実に広範なものです。さらに本学部の授業では、自分でレポートを書いたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりしますし、また4年次では卒業研究の作成が必須になっています。そのためには、美しく正確な日本語で「聞く・読む・書く・話す」ことができなければなりません。高等学校課程における「国語表現」「小論文」等の学習が、強く望まれます。
- ・現代の文化や社会を理解するには、過去の人びとの精神や心性も学ばなければなりません。伝統的な文化遺産や古い習俗等への幅広い教養があってこそ、現代の多様な社会的事象への関心が深まるのです。そのためには、古今東西にわたる文化や歴史、さらに地理や思想等に関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「古典」「日本史」「世界史」「地理」「倫理」等の学習が、強く望まれます。

〔思考力・判断力・表現力〕

- ・自分でレポートや卒業研究を仕上げたり、プレゼンテーションやディスカッションをしたりするには、資料を調査して何が必要かを考えたり見分けたりする力、人に分かりやすく説明できる表現力が必要です。その基礎となるアクティブ・ラーニング（能動的な学び。調べ学習やグループワークに基づく発表等）に、高等学校在学中から積極的に取り組んでいることが強く望まれます。
- ・高度情報社会では、多様な情報の中から正確な情報を見分け、メディアを通して適切に収集・発信するメディア・リテラシーを高めておくことが必要です。それを日頃から意識して、基礎となる思考力や判断力、求められる倫理意識に沿った表現力を磨く努力をすることが強く望まれます。
- ・文学部の学びは、人間力を高める学びでもあります。相手の気持ちを思いやる思考力や、自分のふるまいの適否を見分ける判断力、チームワークを作るための表現力など、相手に敬意を持って接することで日々の生活を通して鍛えられる多くの能力があります。これらを身に付けていることが強く望まれます。

〔意欲・態度〕

文学部は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような意欲を持ち、態度を身に付けた入学希望者を求めます。

- ・主体的に学習する意欲を持っていること。
- ・「日本文学、言語表現及び歴史文化」に関心を持っていること。
- ・解決を必要とする課題を発見し、それを解決し得る上記方面の知識や能力の修得を目指し、その強い意欲をもっていること。
- ・上記方面の知識や能力を介して、地域や国内外の社会とつながり、活躍・貢献したいと考えていること。
- ・柔軟な思考力や想像力を備えるとともに、コミュニケーション能力や表現能力を高めたいと考えていること。

学部等名 国際英語学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>国際英語学部国際英語学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立つ英語指導を基に英語力の育成を図り、英語コミュニケーション能力の育成、コンピュータを駆使した英語による発表力の育成等にある。また、英米の言語・文化の枠を超えた新しい国際的視野を持つ社会人を養成する。さらに、現代の国際化する企業組織、国際団体等で求められる多様な専門知識及び技術を獲得するとともに、汎用性を有する高度な英語力並びに異文化に対する深い理解及び柔軟な対応力を有する国際人の養成を目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>国際英語学部国際英語学科は、定められた課程を修め、以下の全専攻共通と各専攻固有に掲げる学修成果をあげた者に対して学士（国際英語学）を授与します。</p> <p><学修成果（教育目標）></p> <p>《全専攻共通》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際英語学に関する専門的知識、又はその知識を、専門以外の様々な分野に応用して自ら導き出した科学的・学問的な意見を英語及び日本語で論理的に表現できる。 2. 国際英語学に関する専門的知識だけでなく、幅広い教養と総合的な判断力を保持し、道徳・倫理・社会通念に即した行動ができ、かつ、自分の創造的な考えを企画発信できる能力を身につけている。 3. グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）を有し、異文化に対する柔軟な理解力を持って世界の多種多様な人々と積極的にコミュニケーションができる。 4. コンピュータ等の情報機器を使って英語圏文化の幅広い情報や知識を収集でき、それらを客観的に評価できる。 <p>《各専攻固有》</p> <p>[国際英語キャリア専攻]</p> <p>国際英語キャリア専攻は、言語の本質に対する深い理解や言語使用に対する鋭敏な感性を背景とした高度な英語運用能力と、国際的視野に立つ豊富な専門知識や技術を有し、国際実務や教育、研究の分野で即戦力となりうる人材の育成を図ります。また、言葉に対する体系的理解を深める中で論理性や建設的批判能力を高め、さらに、教育課程における主体的な学びを通して、あらゆる局面に主体的かつ自律的に対応する能力を身につけることによって、国際社会にあって真に自立しリーダーシップを発揮できる人材の育成を図ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等に対応可能な高度な言語運用を行える。 6. 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できる。 7. ICTを含め、国際実務や教育に資する知識や技術を高め、それらをあらゆる活動の場に応用できる。 <p>[英語圏文化専攻]</p> <p>英語圏文化専攻は、英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国の歴史・思想・文化を始め、公用語として英語を用いる国々の歴史・思想・文化を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解するための専門的知識及び幅広い教養を修得します。また、グローバル化時代における英語圏文化の多様性を理解すると共に、現在の異文化交流の可能性とその問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に分析できる判断力も身につけます。なお、本専攻の卒業生は、グローバル化時代において必要とされる高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、世界の多種多様な人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて貢献できる人材となることを期待されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 英語を日常語として使用するイギリス・アメリカ両国を始め、公用語として英語を用いる国々

の文化、すなわち広範な英語圏諸国の文化に関する知識を科学的・学問的な視点から複眼的、かつ、体系的に理解できる。

9. 英語圏文化の多様性を総合的に把握し、グローバル化時代に相応しい異文化交流の可能性と、その問題点を自主的・主体的、かつ、倫理的に探究できる。

10. グローバル化社会の一員としての社会的責任とリーダーシップ精神を常に意識しつつ、世界の幅広い人々と協力・協働し、世界各国の持続可能な発展に向けて生涯にわたり自律的に学修できる。

[国際学専攻]

国際学専攻は、世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く西洋と東洋の社会・歴史・文化・思想・宗教を踏まえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、IT技術や時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を培い、英語のスキルと国際的視野を合わせ持つ世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通して、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力の養成を目的とします。

11. 他者の行動に影響のある説得や交渉を英語で行うことができる。

12. 積極的に他者と協力しながら学修活動に参加できる。

13. 自発的・自立的に課題を発見し、効果的な方法で調査し、論理的に分析・議論をし、かつ、「伝わる」表現でまとめることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

(概要)

国際英語学部国際英語学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を教養教育課程（全学共通科目）と専門教育課程（学部固有科目）で構成し、実施します。

《教養教育課程（全学共通科目）》

全学共通科目の卒業要件単位数は、40です。教養教育課程は、全専攻共通になっています。全学共通科目を中心に様々な科目の中から、自然科学、社会科学、人文科学、語学の各領域を満遍なく目的意識を持って自律的に履修することによって、幅広い教養とともに多面的な思考力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を養い、豊かな教養人となるために自己研鑽を継続し、社会の発展に貢献しようとする姿勢を磨きます。

国際英語キャリア専攻

《専門教育課程（学部固有科目）》

学部固有科目の卒業要件単位数は、84です。国際英語キャリア専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

言語に対する体系的理解と高度な英語運用能力を基盤とし、国際ビジネスや教育の分野で必要となる知識や技術を獲得させることで、国際社会のあらゆる局面に対応でき、さらに、高い論理性、倫理性、建設的批判能力を駆使して社会的責任を自覚しつつあらゆる局面に主体的かつ自律的に対応し、国際社会にあって、真に自立しリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とします。

1. 履修区分に応じて科目群に分類

①必修科目（42単位）はその主たる学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

「Oral Communication I～VI」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「英文電子文書作成 I・II」、「海外基礎研修」

B. 英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群

「国際英語入門」、「英語学概説 I」、「言語システム論 I」、「国際英語キャリア演習 I～VI」

C. キャリア教育を目的とする科目群

「国際キャリア・ディベロップメント」

D. 初年次教育を目的とする科目群

「国際英語キャリア入門演習Ⅰ・Ⅱ」

必修科目においては、英語運用の4技能を満遍なく向上させるため当該の科目を配置するとともに、言語の体系的理解や、職業的能力の向上の基礎となる科目を配置しています。特に、1年次に海外研修を必修化し、英語運用の実際や国際ビジネス等の現状を理解することによって、その後の学修への方向性を確立させるとともに、それへ向けての取り組みを加速させています。また、初年次教育においては、「国際英語キャリア入門演習Ⅰ・Ⅱ」を核として、すべての授業を通じて高等学校から大学へ円滑な移行を図るとともに、大学での学修が学問的にも社会的にも成果を上げるよう履修指導を含めた総合的の大学リテラシーの指導を行います。また、授業外においてもゼミ担当教員が、随時個別指導を行います。

②選択必修科目(32単位)はその主たる学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 英語運用能力の向上を目的とする科目群

「PresentationⅠ～Ⅵ」、「英文電子文書作成Ⅲ・Ⅳ」、「Advanced DiscussionⅠ～Ⅳ」、「Current EnglishⅠ～Ⅳ」

B. 英語や言葉に対する体系的理解を深めることを目的とする科目群

「実用英語運用法Ⅰ・Ⅱ」、「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」、「英語学概説Ⅱ」、「語形成論」、「英語の歴史Ⅰ・Ⅱ」、「国際社会言語学Ⅰ・Ⅱ」、「英語コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」、「ことばの意味」、「言語学外書講読Ⅰ・Ⅱ」、「Language Variation」、「Language and Culture」、「言語システム論Ⅱ」、「海外研修A～C」、「交換留学」、「セメスター留学」

C. キャリア形成に資する能力の向上を目的とする科目群

「英語資格Ⅰ～Ⅲ」、「ビジネス英語資格Ⅰ～Ⅲ」、「ビジネス翻訳実務Ⅰ・Ⅱ」、「翻訳とITⅠ・Ⅱ」、「通訳演習Ⅰ・Ⅱ」、「国際言語管理」、「ビジネスとアジア英語」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、「英語科教育法ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」、「早期英語習得論Ⅰ・Ⅱ」、「ツーリズム論Ⅰ・Ⅱ」、「海外業務体験Ⅰ～Ⅳ」

選択必修科目群においては、必修科目で獲得した技術的・学問的基盤に基づいて、主体的に科目を選択しつつ、英語運用能力を高度化し、言葉に対する体系的理解をさらに深め、国際的なあらゆる局面に即応できる知識を蓄えることが可能となる科目を配置しています。海外研修を選択必修としているため、結果として、卒業までに最低2回の海外研修を課しています。これにより、高度な英語運用能力を確かなものとするとともに、職業人としての活躍の場を世界に求める意識を浸透させています。

2. 進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

① ビジネスキャリアを目指す学生の履修例

演習、講義等の授業のほか、海外研修等での現場体験を通じて、高い英語力を身につけ、その高い英語力を駆使して企業や公的機関で国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。

② 言語研究者や英語教育専門家を目指す学生の履修例

言語に関する幅広い内容の講義・演習・実習を通じて、英語教員、英語教育研究者・言語研究者の志望者を、理論と実践の両面から育成することを目的とする。

③ 通訳者や翻訳者としての専門的活動を目指す学生の履修例

高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、海外研修を含む幅広い科目を履修させることによって、通訳者や翻訳者としてフリーランスでも活躍できる人材の育成を目指す。

3. 国際英語キャリア専攻固有科目の特色

国際英語キャリア専攻では、高度の英語運用能力と言葉に対する体系的理解を基盤として、国際舞台に即応できる知識を活用して活躍する国際人の育成を目指しています。その専門科目として、英語運用能力、言語科学、キャリア関連の科目を重厚に配置しています。さらに、海外研修を2回義務付けることにより、獲得した知識や技術を机上のものにすることなく活用できるまで浸透させています。また、ゼミ指導を1年次から開始することによって高等学校から大学への円滑な移行を図るとともに、ネイティブ教員と日本人教員の共同授業、上級生によるチュートリアル等を通じて授業外でも学生の主体的学びを支援する仕組みを整えており、それらを支える施設(PC教室、自習室等)も完備しています。その一方で、科目群の中での選択に幅を持たせることによって、目的を見失うことなく、自律的に履修ができるカリキュラムとなっており、生涯にわたるキャリア・ディベロップメントを見据えることができます。選択必修の海外研修においても、

1 年間の交換留学から短期の研修まで選択できるようになっており、学生のニーズにあった選択が可能となっています。

4. 学修成果と科目との関係

- ① 高度な専門的議論や公式文書の作成・翻訳等にも対応可能な高度な言語運用を行えます。
「Oral Communication I～VI」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「英文電子文書作成 I～IV」、「海外基礎研修」、「Presentation I～VI」、「Advanced Discussion I～IV」、「Current English I～IV」
- ② 言葉に対する体系的理解や論理思考力を有し、それらを言語使用に活用できます。
「国際英語入門」、「英語学概説 I・II」、「言語システム論 I・II」、「国際英語キャリア入門演習 I・II」、「国際英語キャリア演習 I～VI」、「実用英語運用法 I・II」、「英語音声学 I・II」、「語形成論」、「英語の歴史 I・II」、「国際社会言語学 I・II」、「英語コミュニケーション論 I・II」、「ことばの意味」、「言語学外書講読 I・II」、「Language Variation」、「Language and Culture」、「海外研修 A～C」、「交換留学」、「セメスター留学」
- ③ 国際実務や教育に資する知識や技術を有し、それらをあらゆる活動の場に応用できます。
「国際キャリア・ディベロップメント」、「英語資格 I～III」、「ビジネス英語資格 I～III」、「ビジネス翻訳実務 I・II」、「翻訳と IT I・II」、「通訳演習 I・II」、「国際言語管理」、「ビジネスとアジア英語」、「New Management Trends」、「Global Economic Trends」、「英語科教育法 IA・IB・IIA・IIB」、「早期英語習得論 I・II」、「ツーリズム論 I・II」、「海外業務体験 I～IV」

英語圏文化専攻

《専門教育課程（学部固有科目）》

学部固有科目の卒業要件単位数は、84 です。英語圏文化専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

英米のみならず、英語を公用語とする英語圏の言語文化に関する広範な専門知識と教養を自主的・主体的に学び、英語圏の文化の多様な価値観と文化を尊重し、異文化交流のあり方を倫理的、複眼的、かつ、体系的に理解できる判断力を身につけることを目的とします。あわせて、グローバル化時代に見合った高度な英語運用能力及び情報収集・処理能力を養い、社会的責任とリーダーシップ精神に関して理解を深めていくことで、日本だけでなく世界各国の発展に積極的に貢献できるグローバル人材の育成を目指しています。なお、成績評価は、あらかじめシラバスにより公表された授業計画及び学修到達目標を踏まえて厳正かつ適正に行われます。

1. 履修区分に応じて科目群に分類

- ① 必修科目（44 単位）は、学修目標に従って以下のように分類されます。
 - A. 学士（国際英語学）にふさわしい知見を獲得し、キャリア教育を目的とする科目群：国際英語学に関する知識の自主的・自律的修得及びキャリア形成に資する能力の向上を目指します。
「国際英語入門」、「国際キャリア・ディベロップメント」
 - B. 英語運用能力の向上を目的とする科目群：グローバル化時代に必要とされる高度な英語運用能力を身につけます。
「Oral Communication I～IV」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「Presentation I～IV」、「英文電子文書作成 I～IV」
 - C. 英語圏文化の体系的理解を深めるべく、入門から卒業論文作成まで運営する演習科目群：能動的・主体的なディスカッションやディベートを通じて、初年次から英語圏文化の専門的な知識や幅広い教養をグローバルな視点から理解することができます。初年次教育では、演習形式を通じて、英語圏文化に関する入門的知識、又は語学及び専門教育科目を自主的・主体的に学修する手法を身につけることができます。4 年次では、自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、またそれに基づいて自身の見解を卒業論文として完成させるための方法や英語・日本語の高度、かつ、専門的表現を修得できます。
「英語圏文化入門演習 I・II」、「英語圏文化演習 I～VI」
 - D. 基礎力をつけた 3 年次にさらに応用・発信型の英語力向上を目指す科目群：グローバル化社会において必要とされる実践的な英語能力を獲得することができます。

「Critical Reading I・II」、 「English Project Workshop」

② 選択必修科目(14単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 3年次・4年次に上級レベルの英語運用能力を自主的・主体的に修得することを目的とする科目群

「Professional English I～IV」、 「Professional Writing I・II」

B. 英語圏文化について、地域区分により複眼的かつ体系的に知識を獲得する科目群

「イギリス研究入門」、「イギリス研究」、「アメリカ研究入門」、「アメリカ研究」、「英語圏研究入門」、「英語圏研究」、「イギリス文学A・B」、「アメリカ文学A・B」、「英語圏文学A・B」

C. 座学を越えた体験学修の機会を与える海外研修科目群：長期・中期・短期の海外研修を通じて、現地で異文化交流を直接体験し、英語運用能力の向上とあわせて多文化・異文化理解に対する認識を深めることができます。

「交換留学」、「セメスター留学」、「海外大学研修1・2」、「海外セミナーI・II」

③ 選択科目(26単位)は、英語圏文化について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開しています。

A. 英語による講義科目群

「American Social History」、「British Social History」、「History of Cultural Exchanges I・II」、「Media Literacy I・II」、「Women's History」、「Current Topics I・II」を開講。

B. 教員の免許状取得のための選択科目群

「英語科教育法I・II」、特に「英米文学」に関しては、「比較文学論」、「批評理論」、「エンターテインメント文芸」、「演劇文化論」を指定しています。

C. 現代的な問題意識とニーズに応える科目群

「音楽文化論」、「映画文化論」、「現代文化論」、「児童文化論」

D. 英語発信力を高める科目群：他者との協力・協働作業を通じて、協調性・社会性を身につけるとともに英語コミュニケーションの実践的能力を高めることができます。

「Intensive Workshop I・II」

なお、英語圏文化専攻開講科目の特徴として、英語による講義科目・上級年次向け英語科目を海外から中京大学への交換留学生在が参加する授業とし、それらを通じて本専攻生は実践的な異文化交流を体験できます。

2. 進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

①教員の免許状取得を目指す学生の履修例

英語圏文化専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員として英語の本流と文化的素養を身につけます。さらに他専攻が開講する英語学系科目・異文化理解系科目を選択科目として修得できるため、「教科に関する科目」については、卒業要件の範囲内で修得可能となっています。

②文化研究を目指す学生の履修例

高度な英語力を培った上に、多彩な文化研究科目を自らの興味・関心に沿い自主的に選択履修し、豊かな教養人としてグローバル化社会で活躍できる能力を育成します。あるいは、大学院に進学し研究を続けるために必要とされる英語圏文化に関する専門的知識と幅広い教養を養います。

③文化交流とビジネスを目指す学生の履修例

社会的責任とリーダーシップ精神を保持し、実践的な英語力と文化的素養をビジネスに結びつけることを目指します。他専攻開講科目、国内企業インターンシップ等を積極的に活用し、現代のグローバル化社会のニーズに応じていきます。

3. 英語圏文化専攻固有科目の特色

英語圏文化専攻では、グローバル化時代に相応しい高度かつ実践的な英語運用能力と、背景となる多種多様な英語圏文化に対する広範な知識と深い教養を能動的・主体的に修得し、グローバル化社会で積極的に活躍するグローバル人材を育成します。講義科目のおよそ半数がネイティブ教員による英語による授業です。また、初年次教育では、ネイティブ教員と日本人教員が連携し、高等学校等で学んだ基礎知識を応用しつつ、能動的な学修方法を身につける入門演習を展開しています。また、セメスターごとにネイティブ教員と日本人教員が相互的に乗り入れるような授業

形態を2年次演習等で構築しています。英語力増強については、4年次卒業まで持続して授業を運営しています。文化研究関連科目も1年次から継続的、かつ、主体的に修得できるプログラムとなっています。学生たちが放課後を利用し自主的に交流アクティビティを行える施設・設備も整えています。海外研修については、学生にとって馴染み深い英国と北米の二地域を中心に期間は長期・中期・短期を提供し、現地で異文化交流に関する理解を深めることができるようになっています。

4. 学修成果と科目との関係

- ① グローバル化時代に即した総合的、かつ、実践的な英語運用能力を身につけ、海外研修を実地訓練とします。

「Oral Communication I～IV」、「Academic Writing I～IV」、「Reading I～IV」、「英文電子文書作成 I～IV」、「Presentation I～IV」、「Professional English I～IV」、「Professional Writing I・II」、「交換留学」、「セメスター留学」、「海外大学研修1・2」、「海外セミナー I・II」等

- ② 英語圏文化に対する複眼的かつ体系的な理解を通じて、英語圏の様々な他者の存在を認識しつつ、様々な価値観を倫理的に判断し、異文化に対する敬意と尊ぶ感性を養えます。

「国際英語入門」、「イギリス研究入門」、「イギリス研究」、「アメリカ研究入門」、「アメリカ研究」、「英語圏研究入門」、「英語圏研究」、「イギリス文学A・B」、「アメリカ文学A・B」、「英語圏文学A・B」、「American Social History」、「British Social History」、「History of Cultural Exchanges I・II」、「Media Literacy I・II」、「Women's History」、「Current Topics I・II」、「比較文学論」、「批評理論」、「エンターテインメント文芸」、「演劇文化論」、「音楽文化論」、「映画文化論」、「現代文化論」、「児童文化論」等

- ③ 自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開します。また、他者との協力・協働作業を通じて、社会性やモラルを身につけ、自ら設定した目標に向かって努力することの重要性を学べます。

「英語圏文化入門演習 I・II」、「英語圏文化演習 I～VI」、「国際キャリア・ディベロップメント」、「Critical Reading I・II」、「Intensive Workshop I・II」、「English Project Workshop」等

国際学専攻

≪専門教育課程（学部固有科目）≫

学部固有科目の卒業要件単位数は、84です。国際学専攻は、専門教育課程を以下のように編成します。

世界中の英語変種を認め合うという国際英語の視点に立ち、広く世界の社会・文化・思想・宗教をふまえた英語コミュニケーション能力の育成を行います。あわせて、コンピュータ、時事問題の知識等、ビジネスに応用できる汎用性のある知識・技能を涵養し、英語運用能力と国際的視野を合わせ持つ、世界に通じる教養人・職業人を養成します。さらに、英語圏に加えて新興国における研修を通し、語学力、職業上の専門知識及び異文化適応力を養成します。

1. 履修区分に応じて科目群に分類

- ① 必修科目(52単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。

- A. 学士(国際英語学)にふさわしい知見を獲得し、キャリア教育を目的とする科目群

「国際英語入門」、「国際キャリア・ディベロップメント」

- B. 基礎的英語運用能力の向上を目的とする科目群

「Oral Communication I・II」、「Academic Writing I・II」、「英文電子文書作成 I・II・III」、「発音ワークショップ」、「発音法理論」、「Rhythm & Intonation」、「Grammar & Vocabulary」、「Reading Strategies」、「Paragraph Writing」、「Negotiation」、「Explanation」、「Troubleshooting」、「Workplace English」、「Advanced IT Literacy」、「Presentation Skills」、「Essay Writing」

- C. 国際学研究科目群

「国際学入門」、「国際関係論」、「国際ビジネス論 I」

- D. 初年次教育を目的とする科目群

「言語技術と論理的思考」

E. 国際学の体系的理解を深める演習科目群

「国際学演習 I～VI」

② 選択必修科目(20 単位)は、学修目標に従って以下のように分類されます。

A. 国際学研究科目群

「比較文化論」、「異文化理解」、「国際経営学」、「国際開発論」、「世界と日本」、「国際ビジネス論Ⅱ」、「ホスピタリティ論」、「マーケティング論」

B. 英語資格講座科目群

「TOEIC 600」、「TOEIC 700」、「TOEIC 800」、「TOEIC 900」、「TOEIC 1200」、「TOEFL 40」、「TOEFL 60」、「TOEFL 80」

C. 職業体験科目群

「海外業界研究 I～VI」、「総合基礎英語」、「総合実践英語」、「論理的思考とプログラミング」、「ICTと言語教育」、「ICTとビジネス」、「海外短期研修 I～IV」

③ 選択科目(12 単位)は、国際学について幅広く学ぶべく多岐にわたり展開しています。

A. 国際学専攻開講科目の特徴として、選択科目には主に国際ビジネス関連の科目、また日本語教授法等国際社会で実際に働くことを想定した諸科目を配しています。「航空ビジネス論」、「国内企業インターンシップ」、「国際地域研究入門」、「世界の宗教と思想」、「日本語教授法 I・II」、「日本語教育実習 I・II」、「交換留学」、「セメスター留学」

B. 教員免許状取得のための選択科目として、「英語科教育法 I・II」、他専攻開講の英語学関連、英米文学関連の科目が履修できます。

C. その他、他専攻開講科目の一部を履修できます。

2. 進路や関心に応じて3つの履修モデルを提示

① 交換留学を重視する履修例

2年次秋学期から3年次春学期の ISEP 留学を中心に、国際社会理解関連、国際コミュニケーション関連の諸科目を履修の根幹に据えます。

② 職業体験を重視する履修例

国際的に活躍できるビジネス・パーソンを目指す学生が、カリキュラム内で海外職業体験ができます。その体験とビジネス関連の諸科目を履修の根幹に据えます。

③ 教員免許状取得を目指す学生の履修例

国際学専攻が開講する講義・演習・実習により英語教員としての基礎英語力・教養を身につけます。さらに他専攻が開講する英語学系科目・英文学系科目を選択科目として修得できるため、卒業要件範囲内で教科専門科目が修得可能となっています。

3. 国際学専攻固有科目の特色

国際学専攻の英語名 Information Technology & International Studies (ITIS)が表すように、国際学専攻では英語で IT 関連のスキルと国際社会・政治・経済・文化について学修する科目がカリキュラムの根幹を形成しています。国際学専攻のカリキュラムで特徴的なのは、実践的な英語授業や日本語と英語で実施される講義を1年次と2年次に集中的に配置し、学生一人ひとりが自分の興味・関心そして意欲によって自主的な学びに参加できる仕組みを提供していることです。海外研修・海外業界研究については、全専攻の中で最も多様な英語使用環境を体験できる研修・研究を揃えています。英語を母語とする英国・北米・オセアニア諸国、公用語としているシンガポール・インド、そして外国語として学んでいる韓国等で研修を実施します。期間は長期・中期・短期があります。

4. 学修成果と科目との関係

① 国際学研究科目群

外国語系専攻で一般的な人文系科目以外に、国際関係論、地域研究等の社会科学系科目が多く開講されているため、国際社会で通用する複眼的視点や論理的思考力を身につけることができます。

② 英語資格講座科目群

学修目的と到達目標を明確にした英語科目が1年次から2年次にかけて集中的に配置されているため、能率的な英語学修ができます。英語力の到達目標は海外留学の学内選考基準を満たすことです。

③ 戦略的コミュニケーション科目群

海外を含む学内外での学修や活動を通じて、すべての職業において生涯にわたって有効な、語学力・文章力・ICTスキル・情報収集力・分析力・論理的思考力・異文化適応性・柔軟性・協調性を身につけることができます。

④ 自ら研究テーマを設定し、独自の視点から分析調査し、それに基づいて自身の議論を構築し展開する科目群

担当教員の学修支援のもと、学生一人ひとりが高い動機付けを維持できる研究テーマを見付け、問題解決に必要な理論と分析方法及び言語表現方法を獲得できます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

国際英語学部は、「中京大学の建学の精神」「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的」に立脚し、以下の全専攻共通と各専攻固有に掲げる人を広く求めています。

《全専攻共通》

1. グローバル化時代に即した高度な英語運用能力の修得に興味を持つ人
2. 学習活動・各種技術の習得・文化活動・芸術活動・スポーツ活動において常に努力し、その成果を上げている人
3. 学修活動や研究活動、学生生活を通じて社会的責任とリーダーシップ精神を身につけ、グローバル化社会の一員として、将来、多様な人々と協力・協働し、世界各国の持続的発展に貢献したい人 特に、学力の三要素について、以下を有する人を求めています。

＜入学者に求める知識・技能＞

1. 英語に限らず、大学での学習に必要な幅広い基礎学力を有していること。
2. 英語を「読むこと」、「書くこと」、「聞くこと」、「話すこと」のいずれにおいても発展的な学習の素地となる運用力を有していること。
3. 思考力の素地となる読解力を有していること。
4. 海外や日本の文化について考えを深める素地となる知識を有していること。
5. 言語について考えを深める素地となる知識を有していること。
6. PC等の基礎的アプリケーションソフトを使用する基礎的技術を有していること。

＜入学者に求める思考力・判断力・表現力＞

1. 物事を建設的かつ客観的に見つめる能力を有していること。
2. 論点を整理し、筋道をたてて考える能力を有していること。
3. 正しい倫理観・責任感を有していること。
4. 自らの考えを適切な表現を使って伝えることができること。
5. 広い視野を持って物事を体系的に理解することができること。
6. 積極的にコミュニケーションを図ることができること。

＜入学者に求める主体性・多様性・協働性＞

1. 主体的かつ自律的に自らを成長させることができること。
2. 組織における役割を自覚し、責任感をもってそれを果たすことができること。
3. 必要に応じてリーダーシップを発揮し、周囲によい影響を与えることができること。
4. 他者の意見を率直に受けとめ、積極的に取り入れることができること。
5. 社会的責任を自覚し、地域や社会に貢献しようとする態度を有していること。
6. 異なる文化や価値観を柔軟に受けとめ、協調することができること。

《各専攻固有》

[国際英語キャリア専攻]

1. 英語運用力（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の向上を望む人
2. 幅広い分野の本を読み、内容を理解したい人
3. 国際情勢や社会の変化に関する知識を蓄えたい人
4. 社会的責任を自覚し、適切な倫理観を持って生涯にわたり自らの能力を高められる人

<p>学部等名 国際教養学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>国際教養学部国際教養学科の教育目標は、複数の外国語の運用能力を基礎に、言語・歴史・文化・思想・社会に関する学問分野の知見を深め、時々刻々と変化する世界情勢を見極めつつ、能動的に国際協調に貢献しうる国際的教養人を養成することにある。その基礎となる教育研究上の目的は、言語及び国際的教養に関わる学術研究並びにその知見の教育方法の開発である。言語に関わるとは、複数の言語を習得させ、その運用能力を高めることであり、国際教養に関わるとは、広範な分野にわたる多角的学術的課題である。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>国際教養学部国際教養学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（国際教養学）を授与します。</p> <p>＜学修成果（教育目標）＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2つの言語（フランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語のうちいずれか1つ及び英語）を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 2. 国外で学ぶ場合には、世界の人々との交流を深め、多様な文化のありようを客観的に観察・分析することができる。 3. 世界の言語と文化の独自性と普遍性を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。 4. 世界の多様な事象を歴史的観点から把握し、それについて自己の考えを述べることができる。 5. 現代社会の思想的課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。 6. 国際社会が直面する課題を理解し、それについて自己の考えを述べることができる。 7. 探究すべきテーマを自ら設定して調査を行い、自律的・批判的に考察し、創造的な研究成果を提示できる。 8. さまざまな人々と交流し、相互の視点を理解し、社会の中で他者と協調して行動できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>国際教養学部国際教養学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。</p> <p>＜カリキュラムの構成＞</p> <p>本学部のカリキュラムは、全学共通科目と学部固有科目から成り立っています。全学共通科目36単位、学部固有科目78単位に加えて、履修者の関心と目標に応じて全学共通科目と学部固有科目の両者から自由に選択できるフロート単位が10単位設けられ、合計124単位が卒業所要単位となっています。</p> <p>【全学共通科目の目標】</p> <p>全学共通科目では、幅広い視野と多面的な思考力を養い、専門分野にとらわれない総合的な知を身につけることを目指しています。科目の構成については〈全学共通科目の教育課程編成の方針〉を参照のこと。</p> <p>【学部固有科目の特色】</p> <p>学部固有科目のカリキュラムの特色は、一つ目には、入学時にフランス語・スペイン語・ドイツ語・ロシア語・中国語の5言語の中から1言語を選択し、英語とあわせ、集中的に学修することにあります。二つ目に、4つの分野（言語文化、歴史文化、思想文化、国際社会）を柱とすることにあります。さらに、この4分野にわたって設けられた多様な科目の核として演習を配置しています。演習は、2年次から4年次まで必修とし、4年次には卒業研究を完成させることが求められており、それを通して国際的教養人にふさわしい情報収集力、分析力、思考力、発信力を</p>

養成します。

【科目区分】

学部固有科目の区分の仕方は、二つあります。一つ目は段階的な区分で、基礎科目・基幹科目・展開科目と段階的に科目を配置しています。二つ目の区分は分野に基づくもので、言語文化系科目群、歴史文化系科目群、思想文化系科目群、国際社会系科目群の4つの科目群から成り立っています。これら学部固有科目全体の中心に位置するのが演習科目です。

なお展開科目には、キャリア形成支援科目、海外留学に関わる科目も含まれています。

【特徴的な科目・学修方法・学修過程】

- ① 5つの選択言語の運用能力を確実なものとするため、「発音」「会話」「語彙」「文法」「情報処理」「講読」「作文」「語学検定対策」などのクラスにおいて、段階的に学修をすすめます。コミュニケーションに重点を置いたクラスでは、少人数による双方向的な授業運営を行い、特に「発音」クラスは履修者数の上限（15名以内）を定めています。
- ② 英語の高度な運用能力を確実なものとするため、イングリッシュ・ワークショップ（リスニングとスピーキングに重点を置いた授業）、イングリッシュ・スタディーズ（リーディングとライティングに重点を置いた授業）の各クラスを少人数編成にしています（履修者数15名程度）。英語によるリサーチと発表を通じて、高度な内容を英語で発信する能力を磨きます。
- ③ 5つの選択言語の運用能力を向上させ、各文化圏の理解を実地で深めるための機会として、2年次（または3年次）秋学期に各言語圏の大学への留学プログラムを設けています。この留学プログラムは「海外課題研究」という科目として単位認定されます。この科目の履修を強く推奨しています。
- ④ 1年次において国際教養学部での学修の全体像を見渡し、以後の学修の方向づけができるよう、「国際教養学入門A(言語)・B(歴史)・C(思想)・D(国際社会)」を設け、4科目すべてを必修としています。
- ⑤ 国際教養学部における学修の成果を踏まえ、的確に自らの適性を把握し、卒業後のキャリアを展望させることを目的とした「キャリア・ディベロップメント」という科目を3年次春学期に配置しています。
- ⑥ 2年次から4年次までの学修の核となる演習では、4年次秋学期に「卒業研究」を完成させることを目標に、各自がテーマを定め、調査、発表、論文執筆の実際を学びます。その際、少人数クラスにおいて、教員の綿密な指導のもと、各自が主体的に学修に取り組み、積極的に議論に参加することが求められます。
- ⑦ 演習は、言語文化系、歴史文化系、思想文化系、国際社会系の4つの系にわたってクラスを開設しており、履修者は2年次以降、いずれかの系のクラスに属することで、それぞれの系の科目を中核に据えて学部全体のカリキュラムを体系的に学修することができます。
- ⑧ 語学科目の学修成果は、授業への参加度、課題の成果、口頭・筆記の試験をもとに総合的に評価します。講義科目の学修成果は、レポート、試験、又は授業への参加度で評価します。演習科目においては、授業への参加度、口頭発表、レポートを総合して学修成果を評価しますが、演習VIにおいては「卒業研究」の成果の比重が大きくなります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

国際教養学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の教育の理念」、及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度などを有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を広く求めています。

〈入学者に求める知識・技能・意欲・態度〉

〔知識・技能〕

本学部での学びは、言語・歴史・文化・思想・社会に関する知見を深めて、世界の多様な国の人々と相互理解と交流を図り、国際協調に貢献できる国際的教養人を養成することを目標としています。その学びの基礎として広い視野と知識が必要となります。このため、高等学校段階において特に次のような学習に力を入れて取り組んでおくことが望まれます。

〈国語〉本学部での学びにおいては、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッション

などが求められ、日本語で他者の考えを正確に理解し、自分の考えを伝える力が必要となります。さらに外国語を学ぶにあたって、多くの人にとって母語である日本語の十分な知識と運用能力が必要です。したがって高等学校課程における国語の学習が極めて重要となります。

〈英語〉 国際的教養人の養成を目指して、本学部では英語ともうひとつの言語を学びます。そうした外国語学修を進めるための基礎として、高等学校課程における「オーラル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「英語Ⅰ・Ⅱ」「リーディング」「ライティング」の確実な学習が望まれます。また、入学前の英語運用能力を測るひとつの目安として、実用英語技能検定（英検）2級、TOEIC500点以上などが考えられます。

〈社会科〉 国際的な広い視野を得ることを目指す本学部の学びにおいては、日本と世界の歴史や地理、社会のしくみや思想、政治や経済に関する基礎的な知識が必要となります。高等学校課程における「世界史A・B」「日本史A・B」「地理A・B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」などを広く学習しておくことが望まれます。

〔意欲・態度〕

本学部では、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めています。

- 主体的に学習する意欲をもっていること。
- 世界と日本の言語や歴史や思想、国際社会の諸問題に関心をもっていること。
- 状況を冷静に分析する力、粘り強く考える力、柔軟な想像力をもっていること。
- 解決を必要とする課題を発見し、自ら解決できる能力を獲得する意欲と実行力をもっていること。
- 自己表現能力や他者とのコミュニケーション能力を高めたいと考えていること。
- 多様な文化とかかわりをもち、国際社会で活躍し、貢献したいと考えていること。

<p>学部等名 心理学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>心理学部心理学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、幅広い心理学の基礎知識を修得した上で、現代心理学の主要領域である、実験心理学、応用心理学、臨床心理学、発達心理学に関する専門知識と深い思考力を身につけた、社会に貢献できる人材の養成にある。特に、実験による科学的・客観的な心の分析、採用人事や社員教育、交通や作業上の安全性の追求、心の問題への的確なアセスメントと効果的な援助、人が生まれてから死ぬまでの心の発達の探求など、心理学の専門家として社会が求める人材を育成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>心理学部は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（心理学）を授与します。</p> <p>＜学修成果（教育目標）＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における基本的な考え方や理論を理解し、その知見を踏まえて自ら学び続けることができる。 2. 心理学の主要領域に関する知見に基づき、社会に対する誠実な態度をもって、人間の心理と行動の基本的なメカニズム、文化差や個人差といった人間の多様性、あるいはその生涯過程等を理解し、実践に生かす力を身につけている。 3. 実験・観察・面接等の科学的論理性と倫理的配慮を備えたデータ収集法及び適切な情報処理技術による分析法を修得し、心理学に近接する関連領域からの学際的な知見も踏まえて、状況や事態を冷静かつ客観的に評価できる。 4. 現実社会で直面する諸問題に対し、自他の心理と行動を的確にモニターしながら、熱意と行動力をもって積極的に意見を述べ、自らが学んだ分野の独自性に立脚した課題解決を行うことができる。 5. 大学卒業後、各々が活躍する場において社会貢献を意欲的に果たすことができるように、心理学的見地から一つひとつの問題に着眼する力、相手の意見に耳を傾ける力及び相手に語り返す力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>＜カリキュラム全体の方針及び構成＞</p> <p>心理学部の教育課程は、幅広い視野をもって総合的な知を身につける全学共通科目と、心理学の専門的な知識及び技能をもって社会に貢献できる人材を養成する学部固有科目で構成する。卒業要件単位は全体で124単位であり、そのうち専門教育課程を構成する学部固有科目の卒業要件単位は72単位である。また、履修者の関心に応じて全学共通科目と学部固有科目の両方から自由に選択できるフロート単位が8単位設けられている。</p> <p>＜専門教育課程の概要＞</p> <p>心理学部は、実験心理学領域、応用心理学領域、臨床心理学領域、発達心理学領域という4つの領域で構成されている。専門教育課程では、1年次は心理学全般を学ぶ概論的な科目と導入教育的な科目を中心とし、2年次に先のビジョンを持てるような各領域の概論と方法論について学ぶ。3年次にはゼミに配属されて専門の知識と技能を身につけ、4年次にはそれらを使いこなして卒業論文を仕上げることで必要な能力を実際に生かすことができるようになる。</p> <p>＜専門教育課程の方針及び構成＞</p> <p>心理学部の専門教育課程は、学位授与の方針に基づく以下の5つの方針に従って学部固有科目により構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とはいかなる学問であるのか理解し、「学び方」を学ぶことができる初年次教育から、

- 2年次以降に専門的な知識及び技能を徐々に積み上げていく構成とする。
2. 人間の心理、行動、多様性、生涯過程に対する理解を促進する専門科目を構成する。講義科目による多様な知識の蓄積に加え、それらの知識を実践に生かす力の獲得を目指した実習科目を充実させる。また、国際社会においても知識及び実践力を発揮できるよう、英文を講読する演習科目や海外演習等を配置する。
 3. 心理学のデータ収集法及び情報処理技術を、倫理的な態度で適切に扱うことができるように方法論に関する科目も充実させる。また、心理学の方法論を幅広く他分野とも結びつけて使えるよう、ゼミ配属後も分野を横断した科目選択を可能とする（実習科目も含む）。
 4. 学修成果を現実社会の様々な問題の解決に生かせるよう、個人又はグループで課題に取り組むことを主とする演習形式の科目を配置するほか、自らの問題意識に沿ってテーマを策定し、計画的にデータを収集・分析して成果を論文にまとめる卒業研究を必修とする。
 5. 心理学の専門知識・技能を卒業後の活動や社会貢献と関連づけられるよう、ゼミ配属前からキャリア関連の科目を配置する。また、心理学を修めた者として意欲的に社会と関われる人材を育てるため、カウンセリング関連の科目を始め、どの領域においても対話力の向上を重視する。
 6. 公認心理師の受験資格を得られるための、必要な講義及び演習・実習科目を設置し、心理学に基づく専門職業人としての確かな基礎的素養を身に付けることを可能とする。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

心理学部では、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」を尊重し、以下に示す知識や技能、知的好奇心を有し、それらを土台に学びを昇華させる意欲のある人を広く求めています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

〔知識・技能〕

心理学部での学びは、「人の心の働きを科学的に探究し、それを実際の社会問題の解決に役立てること」です。多様な価値観を持つ人間を理解するとともに、社会が抱える問題を考えるためには、高等学校段階において、その基本となる教科・知識を幅広く学習しておくことが大切です。特に、心理学部での学びと関連して、次のような学習をすすめておくことが望まれます。

- ・心理学は科学（science）です。実験等で得られたデータの数的・統計的処理を行うことから、ある程度の数学的な能力が必要となります。
- ・先端の研究内容を学んだり、参考にしたりするためには、外国語で書かれた学術論文を読み解く必要があります。そのためには、継続的に英語の学習をすすめておくことが求められます。
- ・心理学には、人と関わりを持ち、対話を通じて他者をより良い方向へと導くカウンセリング等の分野があり、高度なコミュニケーション能力が求められます。そのためには、読書を通じて幅広い教養を身につけるとともに、国語力や国語表現等の学習を確実にすすめておくことがよいでしょう。

〔意欲・態度〕

心理学部で学ぶにあたっては、データの処理・分析を通して、科学的結論を得る力だけではなく、相手を受け入れつつ導くことができる心の広さ、懐の深さも求められます。これらは、心理学特有の面接技法や心理テストの実施能力を身につけることで、ある程度は入学後に伸ばすことができる素養でもあります。しかしながら、それにもまして必要とされるのは、人間の行動や人間そのものへの興味や旺盛な知的好奇心、学習を粘り強く続ける力です。

上記のことを踏まえて、大学での充実した学びを達成するために、以下のような入学希望者を求めます。

- ・人間の行動に興味があり、そのメカニズムを知りたいという知的好奇心があること。
- ・柔軟な思考力や想像力を持ち、主体的に学習する意欲を持っていること。
- ・実験や観察といった研究方法を通じた、科学的な分析に興味を持てること。

学部等名 現代社会学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部現代社会学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、現代社会に生起する諸課題に果敢に挑戦し、その克服のために尽力する人材の養成にある。この目的を達成するために、社会学を軸に教育学、心理学、社会福祉学、文化人類学等が連携して、社会学専攻、コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻及び国際文化専攻の4専攻を柱として配し、教育及び研究に取り組む。各専攻に基づいて体系的に修得する専門的知識とそれを背景とした調査力・実践力・表現力を備え、社会の一員として活躍するだけでなく、現代社会の構造を理解し、目指すべき社会を構想する人材を養成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>現代社会学部現代社会学科は、定められた課程を修め、厳格な成績評価を経て、以下の学修成果をあげたと判定される者に対して学士（社会学）を授与します。</p> <p><学修成果（教育目標）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会に生起する諸現象に関心を持ち、諸現象の中から社会的な問題を発見し、分析し、適切なアプローチ方法を構築し、実践していくことができる。 2. 社会を形成する人びとの営みを「市民」という視点で捉えるとともに、社会の本質的かつ基礎的な理論を踏まえて、理解し、分析することができる。 3. 現代社会の成り立ちと変化・変動を、歴史的・世界的な枠組みから捉え、近代化とポスト近代化、グローバル化とローカリティ、少子化人口減少社会と超高齢化、格差と社会的孤立、価値規範の多様化と生きづらさ等の社会現象を、それぞれの現象の関連性と異質性において分析、考察することができる。 4. 「現場主義」を重視することにより、実証的な方法と行動力を身につけ、データの収集とその精査、分析を通し、事実への認識力を向上させることができる。 5. 混迷する社会に対し、21世紀を構想するビジョンを持ち、問題の解決に向けた具体的な提案をし、実行に移す自信を醸成することができる。 6. 「フィールドワーク」「現場体験」「プレゼンテーション」等を通して、他者と協働することにより、チームワークの重要性を認識することができるようになる。すなわち他者との協働を円滑にしていく力を醸成することができ、そのことにより他者とのコミュニケーション能力を身につけることができる。 <p>以上の学部学科全体の学修成果に加えて、各専攻において以下のような学修成果を定めています。</p> <p>[社会学専攻]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学的想像力を身につけている。社会学的想像力によって、従来の常識や枠組にとらわれずに、できるかぎり全体社会とのつながりのなかで、日常世界を理解できるようになる。 2. 「新しい社会」の仕組みを構想できる力を身につけている。社会の仕組みをどのように変えていけばよいのか、構想・デザインできるようになる。 3. コミュニケーション能力を身につけている。諸問題の根本と解決策を、多くの人と共有するために、わかりやすく書き、話すことができるようになる。伝達方法が多様化する中で、ITやメディアも活用できる。 <p>[コミュニティ学専攻]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニティの現場で調べ、考え、実践する力を身につけている。さまざまなコミュニティにおける人のつながりの実際を調べ、その意味を理解し、説明できる力を身につけている。 2. 社会学、心理学の両方の学びを通して、実践的な知を身につけている。「集団」に注目する社会学と「個人」に注目する心理学とをともに学び、実践的な知識を養っている。 3. 実社会に役立つ力を身につけている。「現場」での経験を重視し、実社会で役に立つ力を身につけているそのために重要なコミュニケーション力、すなわち、調査現場での協調性、情報収

集能力、分析力、プレゼンテーション能力等を身につけている。

[社会福祉学専攻]

1. フィールドワークを重視し、理論と実践を融合する力を身につけている。実習、演習教育を主眼とし、福祉専門職としての力を身につけている。社会福祉士国家資格を取得するために必要な力を有している。
2. 共生のための新しいつながりを創る、主体性を身につけている。地域という現場において、つながりあい、共同する関係を創造する力を身につけている。
3. 社会に貢献するチームワーク力を身につけている。仕事を遂行していくためのチームリーダー力やチームワークを推進していくためのフォローアップ力を身につけている。

[国際文化専攻]

1. 文化人類学を基礎とし、人間の営みを「文化」の観点から理解できる。「文化」という営みを中心に捉えつつ、新たなつながりを創出できる。
2. モノへのまなざしを身につけることができる。モノの先にあるひとの暮らしを理解できる。
3. フィールドワークを通して、現代社会の諸問題を具体的に理解し、説明できる。さまざまな文化をつなぐ事ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

(概要)

現代社会学部現代社会学科では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していきます。教育課程は、一般教養科目である全学共通科目と専門教育科目である学部（専攻）固有科目から構成されます。全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨きます。それとあわせて初年次教育では、専門課程の基礎としての知識・技能の養成及びキャリア教育の導入を行います。専門課程では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するための科目編成をしています。成績評価については、各科目の特性に照らして適切と考えられる多面的な方法をシラバスに明示し、それを厳格に適用します。

<専門教育科目（学部固有科目）の全体構成とキーコンセプト>

現代社会学部の専門教育課程は、以下の概念図に示すとおり、社会学を現代社会への視座として学部教育の基礎に置き、その上に心理学、教育学、文化人類学、社会福祉学といった学を基盤にした専門性を高める専攻別カリキュラムを採用しています。それぞれの専攻のカリキュラムは基礎科目・基幹科目・展開科目に分かれており、学年が上がるにつれてより専門性の高い科目が配置されています。

科目編成における学部のキーコンセプトは「社会構想」です。これは理論的な追究と現実的、具体的な場における制度や関係の追究に分かれます。新しいつながりを基礎とする社会構想は、社会学専攻のカリキュラムによって理論的・総合的に追究されます。コミュニティ学専攻、社会福祉学専攻、国際文化専攻は、それぞれの領域における現場を素材に新しいつながりの形成を追究します。その追究の視点と方法がカリキュラムの構成となっています。

この「社会構想」の追究とともにカリキュラムの背骨になっているもう一つの柱が、「キャリア構想」関連の科目群です。このキャリア構想科目群は1年次から4年次まで系統的に設けられています。現代社会の分析からこれからの「社会」を「構想」するなかで、各自の実践的なキャリア形成の方向を具体化することを狙いとしています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

(概要)

現代社会学部現代社会学科は、「中京大学の建学の精神」「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度等を有し、それを土台に学びを昇華させる意欲ある人を広く求めています。多様な能力・個性をもった人たちに入学してもらうために、知識・技能以外に、思考力・表現力・判断力を重視するといった、評価の観点が異なる、複数の入り口を用意しています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

〔知識・技能〕

現代社会学部での学びは、人々の営みを真正面から見つめ、そこに潜む問題を発見し、掘り起し、その原因を分析・追究し、解決を目指すものです。それゆえ、扱うテーマは広範囲に及んでいます。環境、福祉、心理、グローバリゼーション、文化、メディア、コミュニティ、家族、教育等多彩です。このようなテーマに向き合うためには、広い視野と知識が求められるため、高等学校段階において基本となる教科をしっかりと学習しておくことが大切です。特に、現代社会学部の教育課程を通じた学びに関連しては、高等学校段階において、次のような学習をすすめておくことが望まれます。

- ・ 「社会」をテーマに学修をすすめるわけですから、その成り立ちや仕組みに関する理解が必要です。そのため、日本のみならず世界の地理・歴史や政治経済に関する基本的な知識は不可欠です。
- ・ 社会は他者との関係において形成されるものであり、それを学ぶためには他者とのコミュニケーションなしでは成り立ちません。そのためには、「読む・書く・話す・聞く」国語力が必須ですし、場合により対象とするフィールドは世界の各地にも及びますから、それぞれの国、地域の言語への興味を持つことが望まれます。そして多くの場合の共通言語としての英語力が必要になります。

〔思考力・判断力・表現力等〕

社会学では、社会学と関連領域の理論を理解するとともに、社会現象を理論にもとづいて分析したり、社会に関するデータを収集・分析したりするための、論理的・数理的思考力が要求されます。また、未来の社会のあり方を構想するために、多くの情報を総合・検証する判断力や想像力も必要です。さらに、プレゼンテーションなどを通じて、事実を報告したり提案を行ったりするための表現力、仕事を進めるためのチームワークを作り維持する能力等も求められます。こうした能力は、推薦入試や特別入試では特に重視されます。

〔意欲・態度〕

現代社会学部では、自立した個人（市民）が孤立することなく社会の中で共生するためのしぐみ（公共性）と様々に生起する問題事象に対する行動（ボランティア）を教育の軸としています。授業は座学を基礎としつつも、フィールドワーク、現場体験、プレゼンテーション等の実践系の科目を重視しており、自らが行動すること（フットワーク）が求められます。具体的には、以下のような意欲や態度を有していることが望まれます。

- ・ 現代社会と人間に対する興味や好奇心を持つことと持ち続けること。
- ・ 21世紀社会において生起する諸課題に対する問題意識と、それらに果敢に立ち向かう気概・勇気を持つこと。
- ・ 現代社会で起きている諸問題への深い関心と、課題究明のために尽力するフットワークがあること。
- ・ 主体的・積極的に他者との関わりを持つことができること。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する専門知識、思考方法、問題発見及び問題解決能力を修得させるとともに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を行うことを教育研究上の目的とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法律学科は、所定の課程を修め、かつ具体的に下記の6つの学修成果をあげた者に対して、学士(法学)を授与します。</p> <p><学修成果(教育目標)></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる。（基礎知識） 2. 法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題に対して法学的視点から取り組むことができる。（応用知識） 3. 法学的思考を身につけることにより、様々な物事を論理的、客観的、批判的、かつ公正に自らの頭で考えることができる。（法学的思考） 4. 法学的思考に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる。（課題の発見・解決） 5. 法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得することができる。（主張・説得） 6. 法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる。（主体性・協働性・応用力）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する教育研究を行う学部であり、建学の精神における四大綱の「ルールを守る」人物を育成するという目的を達成するために最も相応しい学部です。</p> <p>法学部法律学科は、「教育研究上の目的（理念・目的）」に掲げたとおり、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を教育研究上の目的としています。</p> <p>I. 教育課程の編成の二本柱</p> <p>法学部は、以上の教育研究上の目的を達成するため、「全学共通科目」と「学部固有科目」を大きな柱として、教育課程（＝カリキュラム）を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「全学共通科目」 <p>「全学共通科目」は、教養的知識を提供することにより、法学部生が、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を培うことを目的とする科目群です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 「学部固有科目」 <p>「学部固有科目」は、法学部が、法学（法律学及び政治学）に関する専門的知識を提供することにより、法学部生が、社会の変化や文化の発展に対応しつつ、既存又は新規の課題発見能力及び解決能力を身につけることができるようになることを目的とする科目群です。</p>

II. 「学部固有科目」の構成と特色

1. コース区分・履修モデル

法学部の専門教育課程では、学生自身の興味や将来の目的・進路に応じて多彩な専門的科目を合理的かつ体系的に学ぶことができるように、また、特に、1年生が自ら4年間の学修計画を立て、主体的な学びを实践できるように、さらに、学生のキャリア形成に資するように、以下の三つのコースを設置し、各コースに履修モデルを提示しています。学生は、2年次履修登録の際にコースを決定・登録し、3年次履修登録の際に、コースを変更することができます。

- ☆. 「法律コース」
- ★. 「国家公務員（総合職）・ロースクール進学モデル」
- ★. 「国家公務員（一般職・専門職）・地方公務員（上級）モデル」
- ★. 「警察官・消防士モデル」
- ☆. 「企業コース」
- ★. 「民間企業就職モデル」
- ☆. 「政治コース」
- ★. 「教員・公務員モデル」
- ★. 「NPO職員・議員秘書モデル」

2. 「学部固有科目」の構成

(1). 「必修科目」

1年次に配当されています。「法学・憲法の基礎」は、「専門科目」のうち「基幹科目」・「展開科目」を受講するための基礎を身につけるための初年次教育科目です。また、「キャリア形成の基礎」は、将来目標とする職業に就いて理想的な社会人生活を送るためのキャリア教育科目です。

(2). 「専門科目」

「専門科目」は、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」から構成されています。

DPに掲げた学修成果との関連性は以下のとおりです。

①. 「基礎科目」

DPに掲げた6つの学修成果のうち、主に、「1. 法学に関する基礎知識を修得することにより、身近な事例を法学的視点から捉えることができる」ことを目的とする科目で、主に、1年次に配当されています。

②. 「基幹科目」

DPに掲げた6つの学修成果のうち、主に、「2. 法学に関する応用知識を体系的に修得することにより、発展的な問題領域において法学的発想をすることができる」こと及び「3. 法学的思考力を身につけることにより、様々な物事を論理的、批判的、客観的、かつ公平に自らの頭で考えることができる」ことを目的とする科目で、主に、2年次に配当されています。

③. 「展開科目」

DPに掲げた6つの学修成果のうち、「4. 法学的思考方法に基づいて、多様な事象の中から新たな課題を発見し、その解決方法を考えることができる」、「5. 法学的思考に基づいて形成した自らの意見を、思考の過程とともに他者に示し、説得することができる」及び「6. 法学特有のバランス感覚及び倫理観を基に、他者と協調しながら、法学に関する知識と技能を実社会において応用する素地を形成することができる」ことを目的とした科目で、主に、3年次・4年次に配当されています。

(3). 「関連科目」

「経済」・「経営」は、法学と密接に関係しているため、法学をより深く理解するために、履修することが強く推奨されます。また、「実践科目」として、初年次教育としての一環としての「日本語リテラシー」と「情報リテラシー」（1年次配当）、キャリア教育の一環としての「インターンシップ」（3年次配当）が設けられています。さらに、総合大学としてのスケールメリットを活かし、各自の興味により学部横断的に異分野の科目を履修することにより、幅広く学修を進めることができます。

3. 特色ある専門科目

①. 「入門科目」

講義科目として「民法入門」、「刑事法入門」、「政治学入門」が設けられており、法学の専門知識を修得していくための導入教育として位置付けられています。

②. 「入門演習」

1年次に配当されていて、大学教育における能動的・主体的な学修への円滑な移行を助けるための導入教育として位置付けられています。また、2年次配当の「基本演習」、3年次配当の「専門演習Ⅰ」、4年次配当の「専門演習Ⅱ」と履修することにより、4年間継続してゼミナールに所属できることが本学部の特長です。

③. 「特別テーマ講義」

法学に関する体系的学修を行う科目群と並行して、その時々の時勢において求められる特別な専門知識や実務能力を身につけるために設けられた科目です。各講義にはそれぞれに固有のテーマが設定され、そのテーマに沿った授業が展開されます。

☆. 「法実践プログラム」

実務家による講義・演習で「使える場を意識した」法学教育の実現を目標とする科目です。「講義科目」としての「法実践講義」、「演習科目」としての「法実践演習」があります。

4. 授業の方法

①. 講義

教員が、独自に、予め公表した「授業計画（シラバス）」と「学修到達目標」に基づいて、授業を展開しています。

通常の口頭による授業では、以下の点に留意して、授業しています。

- (i) よく聞き取れる声
- (ii) 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材の効果的な使用
- (iii) 学生の理解度やレベルへの配慮
- (iv) 授業内容と学修目標の適切な対応
- (v) 新しい知識、技術、能力の修得

②. 演習（ゼミナール）

少人数の学生を対象に、学生と教員、学生と学生が、お互いにディスカッション・ディベートにより双方向的な質疑討論を行わせて、研究を進め、知識を修得していく授業形態です。

5. 学修成果の評価

教員が、独自に、DPに掲げた学修目標の到達を的確かつ適切に評価する方法（定期試験、レポート、確認テスト、平常点等）を考え、その方法に基づいて、厳正な成績評価を行っています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

法学部法律学科は、法学（すなわち、法律学及び政治学の両分野）に関する専門知識、思考方法、問題発見及び問題解決能力を修得させるとともに、確固たる遵法精神を持ち（「ルールを守る」）、協調性及び社会性に富み（「チームワークをつくる」）、他者の存在及び意見を尊重し（「相手に敬意を持つ」）、最善かつ不断の努力を惜しまない（「ベストを尽くす」）人物の育成を行うことを教育研究上の目的としています。この目的を達するため、法学部法律学科が入学者に求める能力及び意欲は下記のとおりです。

<知識・技能>

- ・ 高等学校等において幅広い教科の科目を学び、法学を学ぶために必要な基礎学力を有していること。
- ・ 文章を正しく「読む・書く・話す」ことができ、法学に関する文献の講読、文書の作成及び意見や成果の発表等にあたって必要となる基本的な言語能力を有していること。

<思考力・判断力・表現力>

- ・ 物事を単なる感覚ではなく論理に基づいて考えることができ、さらに高い論理的思考力（法学的思考力）を身につけることが求められる法学学修の前提的素地を有していること。
- ・ 人の意見に流されず、自らの判断で物事を考え自分の意見を形成することができること。

- ・ 自らの考えを整理してわかりやすく他者に伝えることができ、それを大学における法学学修によって説得力や弁論能力の向上につなげていく素質を有していること。

<意欲・態度>

- ・ 学問としての法学に強い興味関心を抱いており、入学後に法学の専門的知識及び技能を身につけ、論理的思考力を向上させていくことに高い意欲を有していること。
- ・ 倫理観とバランス感覚をもって、主体的かつ能動的に法学の体系的学修に励み、他者と協調しながら大学生活を送る姿勢が整っていること。

<p>学部等名 総合政策学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>総合政策学部総合政策学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、社会科学の諸分野すなわち政治学・法律学・経済学・経営学等の幅広い基礎的学修をベースとして、実社会で生起している本来的に多面性を有する諸問題に取り組むための思考習慣を涵養することである。そのような思考の実践過程が実社会においては協働的プロセスによって行われることに鑑み、能動的学修にも重点を置く。これらの教育を通じて、企業・公共団体等の組織、また地域・国際社会等における協働的プロセスの様々な場面において重要な役割を果たすことのできる人材を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>総合政策学部総合政策学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（総合政策学）を授与します。</p> <p>【学修成果（教育目標）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会を構成する社会人として社会に関わり、社会の仕組みや動きについての基本的な知識をもち、状況に応じて合理的な根拠に基づく判断をすることができる。 2. 集団や組織を運営するためのリーダーシップ及びチームワークに基づくマネジメント能力を身につけている。 3. 社会の諸問題に関する論理的思考力を身につけている。 4. 政治学・法律学・経済学・経営学を中心とした社会科学を多面的に学修し、さらにプロジェクト研究、社会人基礎力講座等において社会に関する諸問題を数量的スキルや情報リテラシーを用いて分析し、問題に取り組むための思考習慣を有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p> <p>（概要）</p> <p>総合政策学部の教育研究上の目的に沿って政治学、法律学、経済学、経営学の各学問分野の基礎を総合的に学修し、複雑に絡み合う今日的な問題を基礎的・本質的側面から多面的に捉えることができるようになるために、以下に示す教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初年次教育：1年次に総合政策概論、「アカデミック・スキルズA, B」、キャリア・デザイン、及び2年次に「ロジカル・シンキング」の授業にて、「4技能（読む・書く・聴く・話す）」能力の育成強化を図る。また、課外に2年次からの「プロジェクト研究」選択の参考とすることを主目的とした教員とのコミュニケーションを図るオフィスラリーの機会を春・秋の両学期に実施することによって、高等学校から大学への円滑な移行を図る。 2. 教養教育：総合政策学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、教養的知識を供し、総合的な知を身につけることを目的とする「全学共通科目」により、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。 3. 専門教育：導入科目と展開科目に分類する。導入科目として「総合政策概論」、「政治学概論」、「法学概論」、「経済学概論」、「経営学概論」等の必修科目及び選択必修科目を講義形式にて配置する。展開科目として社会科学全般を幅広く学ぶ選択科目を講義形式にて配置することにより、諸問題に取り組むための思考習慣の涵養をさらに促す。そして、2年次からは「総合政策プロジェクト研究」や「社会人基礎力講座」等の演習科目によって、少人数授業でのディスカッション・ディベート・プレゼンテーションを通じた双方向型の授業によって能動的な学修を実施する。また、「総合政策特殊講義」によって、学内外の講師による社会の多様な問題に対応するための学修を実施する。 4. キャリア教育：「キャリア・デザイン」、「キャリア・イングリッシュ」、「インターンシップ」等の科目を配置し、総合政策学部での学修をもとにしたキャリア形成教育を実施する。

小テスト、レポート、定期試験、プレゼンテーション等を通じて、これらの科目に対する成績評価の厳正化によって、上記についての最低限の資質・能力を検証します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

総合政策学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定めた「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、積極的に学修し、自らを高めていく意欲ある人を求めています。総合政策学部は、大学での充実した学びを達成するため、以下のような能力や意欲をもつ入学希望者を求めています。

- 高等学校での学びを通じて、政治学・法律学・経済学・経営学を中心とした社会科学の学修を可能とする幅広い知識を持ち備えている人。
- その思考習慣を涵養するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力及び論理的思考力を持ち備えている人。
- 正課内外を問わず様々な活動に参加し、主体性をもって様々な人々と協働して学んできた人。
- 新たな課題を発見し、それを解決するために考え、行動することができる人。
- 研究活動や課外活動、学生生活を通じて、これからの世の中で必要となる知識を身につけ、将来、社会の一員として大きく貢献する意志と意欲を持つ人。

入学前には、高等学校での各教科の幅広い学びを通じ、世界で起きている問題への意識や関心を高めておくことが重要です。

学部等名 経済学部												
教育研究上の目的（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）												
<p>（概要）</p> <p>経済学部経済学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、経済現象を理論的・実証的・歴史的見地から解明し、経済問題の解決に広く貢献することを理念とする。基本的な経済学の知識を修得させること、現代情報化社会に適応できる能力を養わせること、および国際感覚に優れ、幅広い教養と総合的な判断力を培わせることを通じて、国際環境の変化と国内経済の変動に対処するべく、国際性と専門性を兼ね備えた、理論と実践に強い優れた人材の養成を教育目的とする。</p>												
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）												
<p>（概要）</p> <p>経済学部は、中京大学「学位授与の方針」で示された能力を身につけるとともに、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（経済学）を授与することとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基本的な考え方や理論を理解できる。 2. 経済現象や経済の歴史・制度を分析的に考察できる。 3. 経済分析に必要な情報や経済データを選択・収集・処理できる。 4. 現実の経済における課題を発見・分析し、その結果を記述・表現できる。 5. 国際感覚及び教養を身につけ、広い視野で物事をとらえることができる。 6. 様々な問題の解決に向けて、他者と協調し、リーダーシップを発揮して、主体的に行動できる。 												
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）												
<p>（概要）</p> <p>経済学部では、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施します。</p> <p>【カリキュラムの全体構成】</p> <p>経済学部の教育課程は、「教育研究上の目的（理念・目的）」に基づき、以下に示すカリキュラムの概念図のように、幅広く深い教養と総合的な判断力を養うことを目的とする「全学共通科目」と、専門的知識だけではなく、国際社会に通用する能力の育成を目指す「学部固有科目」から構成されます。</p> <p>【学部固有科目の構成】</p> <p>経済学部の専門教育課程の卒業要件単位は 80 単位であり、学部固有科目は、「専門科目」と「ジェネリック・スキル科目」から構成されます。「専門科目」は、基礎から、基幹、展開と段階的に専門性を積み上げるカリキュラムとなっており、経済の仕組みを正しく理解した上で、専門知識と理論を学修します。個々の科目は相互の関連性により、さらに「経済分析」「政策」「国際経済」の3つの科目群及び「共通科目」に分けられ、系統的な履修ができます。「ジェネリック・スキル科目」は、表現力、語学力、海外経験、EXP（エグゼクティブ・プログラム）からなり、経済の専門知識・理論を効果的に修得し、実践するための汎用な能力を養うことができます。</p> <p>【科目群の構成】</p> <p>各科目群は、カリキュラムマップ（別紙）に示す複数の科目によって構成され、各科目群では、主として以下の能力を身につけることを学修目標とします。</p> <table> <tr> <td>共通科目群</td> <td>: 経済学の基本的な考え方や理論を理解する能力</td> </tr> <tr> <td>経済学関連科目群</td> <td>: 経済に関連する幅広い知識を学び広い視野で物事を捉える能力</td> </tr> <tr> <td>経済分析科目群</td> <td>: 経済データを選択・収集・処理し、分析的に考察する能力</td> </tr> <tr> <td>政策科目群</td> <td>: 経済現象、経済の歴史・制度、政策を分析的に考察する能力</td> </tr> <tr> <td>国際経済科目群</td> <td>: 国際的な経済現象とその課題を分析的に考察する能力</td> </tr> <tr> <td>演習科目群</td> <td>: 課題を発見し、他者と協調して、解決に向けて行動する能力</td> </tr> </table>	共通科目群	: 経済学の基本的な考え方や理論を理解する能力	経済学関連科目群	: 経済に関連する幅広い知識を学び広い視野で物事を捉える能力	経済分析科目群	: 経済データを選択・収集・処理し、分析的に考察する能力	政策科目群	: 経済現象、経済の歴史・制度、政策を分析的に考察する能力	国際経済科目群	: 国際的な経済現象とその課題を分析的に考察する能力	演習科目群	: 課題を発見し、他者と協調して、解決に向けて行動する能力
共通科目群	: 経済学の基本的な考え方や理論を理解する能力											
経済学関連科目群	: 経済に関連する幅広い知識を学び広い視野で物事を捉える能力											
経済分析科目群	: 経済データを選択・収集・処理し、分析的に考察する能力											
政策科目群	: 経済現象、経済の歴史・制度、政策を分析的に考察する能力											
国際経済科目群	: 国際的な経済現象とその課題を分析的に考察する能力											
演習科目群	: 課題を発見し、他者と協調して、解決に向けて行動する能力											

表現力科目群、語学力科目群：現象や思考を記述・表現することを通じて他者と協調する能力
海外経験科目群：グローバルに経済現象を考える能力
E X P 科目群：リーダーシップを発揮して様々な問題の解決への道筋をつける能力

【年次配当】

1 年次においては、経済学の学修を始める上で必要とされる科目が配当されています。「マクロ経済学入門」「ミクロ経済学入門」「入門ゼミ」「情報リテラシー」「日本語表現」は、必修科目(10 単位)としてすべての学生が修得し、その他に1 年次に学修しておくのが望ましい科目を選択必修科目として6 単位以上修得します。2 年次では、経済学の中心的な分野を集めた基幹科目の中から選択必修科目として20 単位以上を修得します。3・4 年次では、「経済分析」「政策」「国際経済」のそれぞれに関連する展開科目を中心に選択科目を履修します。また、2 年次秋学期からは、少人数で個別の専門テーマを能動的に学修する「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を選択できます。

【履修モデル設定】

経済学部における専門教育課程のカリキュラムでは、体系的・整合的に学修を進められるように3 つの履修モデル「経済分析モデル」「政策モデル」「国際経済モデル」を提示し、規範的な履修方法を示しています。これらのモデルは、専門的関心や将来の目標にあわせて、1 年次から4 年次まで専門科目とジェネリック・スキル科目を組み合わせた無理のない修得方法となるように設定されています。

【特徴的な科目】

経済学部の専門教育課程では、講義科目と演習科目を組み合わせた学修を勧めています。演習科目では、専門テーマに関する基礎的知識を定着させるとともに、課題解決に必要な方法を修得することで現実社会で必要とされる思考力、判断力及び表現力を有する人材の育成を目指しています。

語学力、表現力、海外経験及び資格等、すべての社会人に求められる汎用的なスキルを身につけるための科目をジェネリック・スキル科目として開講し、中でも EXP 科目は、企業幹部や上級公務員として能力を発揮しうる人材育成を目的としたキャリアプログラムであり、確かな就職に向け、学生一人ひとりに向き合ったきめ細かな支援を行っています。

【初年次教育】

初年次教育として、全ての学生が、「情報リテラシー」「日本語表現」「入門ゼミ」を必修科目として履修することになっています。「情報リテラシー」と「日本語表現」を履修することで、大学教育を受けるための基礎的知識と技術を修得することができます。「入門ゼミ」では、少人数クラス編成とし、経済学部での学修を円滑に行うためのスタディスキル及びアカデミックスキルの修得並びにプレゼンテーション力及びコミュニケーション力の育成を目指しています。

【成績評価】

各科目の授業は、シラバスで公表している授業概要と学修到達目標に基づいて行い、シラバスに明記されている方法・基準で厳格に評価を行います。

経済学部では、授業支援システムの活用と履修相談会の開催によって、各学生の学修の進捗状況を把握して適宜アドバイスを行う体制を整備し、学生が、カリキュラムと調和した学修を行えるように PDCA サイクルを意識したガイダンスを行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

経済学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の教育の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、中京大学「入学者受け入れの方針」を踏まえ、これまでに培った知識や技能を土台として、真摯な態度で経済学を学び、昇華させる意欲的な人を広く求めています。特に以下の知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度を持つ人を求めています。

< 入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・意欲・態度 >

- ・ さまざまな経済現象を理論的に捉える力を養うための、数学的思考力を有している人。
- ・ 世界で活躍するための、英語を始めとする外国語で他の人とコミュニケーションを取る技能を有している人。少なくとも、高等学校で「コミュニケーション英語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、

「英語表現Ⅰ・Ⅱ」、「英語会話」を確実に学習していることが望ましい。

- レポートの作成や、プレゼンテーション及びディスカッションにより、自身の考えを正確に伝えるための、国語力を有している人。新聞等に目を通す習慣を身につけていることが望ましい。
- 現代社会の成り立ちと、そのさまざまな問題を理解するための、地理・歴史・公民等の社会科学に関する強い関心と深い知識を有している人。
- 自分の視野や知識を広げる努力を惜しまず、直面する社会的・経済的問題に対して、関心を抱き、主体的に学習する意欲を持っている人。
- 地域や国内外の社会に根ざし、将来、そこでの活躍や貢献を視野に入れて、コミュニケーション能力及び自己表現能力の向上を目指す人。

学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部経営学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、複雑化・国際化が加速する現代社会に即した経営理論並びにその実践への応用力及び論理的思考力を備えた、企業を始め官公庁、NPO 法人等の各種組織体で活躍できる人材の養成にある。そのために、次に掲げる能力、知識等を備えた人材の養成に取り組む。</p> <p>(1) コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力</p> <p>(2) 各種組織体経営に関する全般的・基礎的知識及び高度の専門的知識</p> <p>(3) 問題を発見し論理的に分析・解析する能力及びコミュニケーションを図る能力</p> <p>(4) 地域はもとより国家・世界に寄与する多様な視点</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部経営学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（経営学）を授与します。</p> <p><学修成果（教育目標）></p> <p>1. コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力を身につけている。</p> <p>2. 企業を始めとする各種組織体経営に関する基礎知識と高度の専門知識を体系的に備えている。</p> <p>3. 各種組織体経営に関する問題を主体的に発見し、論理的に分析・解析することができる。</p> <p>4. 自分の考えや意見を、プレゼンテーションや討議を通して伝えることができる。</p> <p>5. 多様な人の考えや意見を理解しつつ、自分の個性を生かしながら他の人々と共同作業を進めていくことができる。</p> <p>6. 基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うことができる。</p> <p>7. 多様な異文化を理解できるグローバルな視点を備えている。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html ）
<p>（概要）</p> <p>経営学部経営学科は、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。</p> <p>本学部では、教育研究上の目的（理念・目的）で目指すところの、「複雑化・国際化が加速する現代社会に即した、経営理論とその実践への応用力及び論理的思考力を備えた、企業を始め官公庁、NPO 法人等の各種組織体で活躍できる人材の育成」を考慮して科目を設けています。</p> <p>本学部の学生の進路は、多様な業種や職種が考えられ、また就職後も配置転換、転職等、多様な職場を経験する可能性があることから、多様な科目を段階的、体系的に履修できるように配慮しています。具体的には、以下のように科目を分類し、また履修モデルを提供する等の配慮を心がけています。</p> <p>1. 全学共通科目と学部固有科目</p> <p>複雑化・国際化が加速する現代社会に対応するためには、幅広い視野が不可欠であり、専門知識とともに幅広い視野を養う教養知識が必要であることから、以下のとおり全学共通科目と学部固有科目を設けています。</p> <p>①全学共通科目：幅広い視野を養うための、コミュニケーションや自然、人間、社会に関連した科目</p> <p>②学部固有科目：経営学に関連した専門知識や技能を身につける科目</p> <p>2. 学部固有科目の区分</p> <p>専門知識を段階的に身につけることができるように、学部固有科目を以下のとおりに大きく分類しています。</p> <p>①必修科目：経営学を学ぶ上で、また将来の進路を考える上で必須の知識や技能を身につける</p>

初年次教育科目

- ②基礎科目（選択必修科目）：経営学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につける科目
- ③基幹科目（選択必修科目）：経営学の各分野を深く学ぶ上で事前に必要となる知識を身につける科目
- ④展開科目（選択科目）：経営学の各分野を深く学ぶ科目

3. 学部固有科目の科目群

専門知識を分野別に身につけるために、学部固有科目を以下のとおりに大きく分類しています。

- ①企業・戦略分野：組織の中・長期的な方針・計画を立案し、実現する方法について学ぶ
- ②組織・管理分野：経営の基礎となる組織の運用・管理に関する手法について学ぶ
- ③会計・財務分野：資金や金融の観点から、経営について学ぶ
- ④演習科目：少人数の双方向型講義により、各専門分野に関する知識を身につける
- ⑤グローバルビジネス・コミュニケーション：
グローバル化に対応するためのコミュニケーションの技能を高める
- ⑥ビジネス・コンピューティング：
情報化に対応するためのコンピュータと情報の活用技能を高める
- ⑦関連科目：経営学を理解する上で重要な周辺の知識を獲得する

4. 学修成果（教育目標）と学部固有科目との関係

学修成果に関連する代表的な学部固有科目は、以下のとおりです。

- ①コンピュータ、外国語及び簿記・会計に関する基礎的能力を身につけている。
「ビジネス・コンピューティングⅠ・Ⅱ」「ビジネス・イングリッシュⅠ・Ⅱ」「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」等
- ②企業を始めとする各種組織体経営に関する基礎知識と高度の専門知識を体系的に備えている。
「企業入門」「マーケティング入門」「組織デザイン論」「経営管理論」「経営戦略論」「会計学Ⅰ・Ⅱ」「経営財務Ⅰ・Ⅱ」等
- ③各種組織体経営に関する問題を主体的に発見し、論理的に分析・解析することができる。
「ゼミリテラシー」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「プロジェクト研究A～D」「実践・Webマーケティング」「ビジネス情報分析」等
- ④自分の考えや意見を、プレゼンテーションや討議を通して伝えることができる。
「学びと仕事のリテラシー」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「プロジェクト研究A～D」等
- ⑤多様な人の考えや意見を理解しつつ、自分の個性を生かしながら他の人々と共同作業を進めていくことができる。
「学びと仕事のリテラシー」「ゼミナールⅠ～Ⅵ」「プロジェクト研究A～D」等
- ⑥基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うことができる。
「海外ビジネス研修」「ビジネス・イングリッシュⅢ・Ⅳ」「アドバンスト・ビジネス・イングリッシュⅠ～Ⅳ」等
- ⑦多様な異文化を理解できるグローバルな視点を備えている。
「海外ビジネス研修」「異文化コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「国際ビジネス戦略Ⅰ・Ⅱ」「国際経営論」等

5. カリキュラム実施における取り組み

これらのカリキュラムの円滑な運営のために、学部として、シラバス、カリキュラム、講義内容等の自己点検活動を通して、教育の質を確保するよう取り組んでいます。また、成績評価については、個々の教員が学修到達目標に基づき、厳格な成績評価を行っています。さらに、学生の支援として、入学時に実施される履修ガイダンスや新入生オリエンテーションを通して、カリキュラムの理解を促し、また個人の必要に応じた履修ができるように支援しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

経営学部は、「中京大学の建学の精神」、「中京大学の理念」及び学部が定める「教育研究上の目的（理念・目的）」に賛同し、また、以下に示す知識・技能・意欲・態度等を有しており、それを土台に学びを昇華させる意欲のある人を広く求めています。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

本学部では、「企業を始め官公庁、NPO 法人等の各種組織体経営に関する基礎的知識と高度の専門的知識を体系的に備え、問題を主体的に発見し論理的に分析・解析する思考力・判断力、及びコミュニケーションを図る能力を身につける」ことを目指しています。

経営学の学修対象の中心は、現代社会における各種組織体であり、それらを取り巻く環境の経済的、歴史的、社会的、国際的理解が不可欠です。また、組織体が抱える問題を解決するためには、ときには数学的なアプローチが必要となります。これらの知識を理解し、また発信するには日本語力はもちろんのこと、英語力も不可欠となります。

以上の理由から、高等学校における各科目の基礎学力を身につけておくことが望まれます。特に、本学部の特徴である国際化に関する科目を積極的に履修することを希望する人は、英語に関しては高い学力が必要とされる点に留意してください。また、商業科等専門高校の生徒は、専門科目を学習していることは、本学での講義の理解を深めるのに有益であるため、これらの科目の知識をしっかりと身につけるように心がけてください。さらに、本学部では、問題発見能力やコミュニケーション能力等を高めるために、グループ・ディスカッションに取り組む講義も準備されているため、多様な人の考えや意見を理解しながら主体性を持って他の人々と協働作業を進め、自身の意見を表明する意志を持つておくことが望まれます。

本学部では、大学での充実した学びを達成するために、具体的には以下のような入学希望者を求めます。

- ・各種組織体の経営や、そこで仕事をするに関心がある。
- ・各種組織体を取り巻く社会の様々な環境に関心がある。
- ・広い視野で異文化を理解するに関心がある。
- ・問題を主体的に発見し、分析・解析するに関心がある。
- ・自分の考えや意見を、プレゼンテーション・討議・交渉を通して伝えるに関心がある。
- ・基礎的な情報の収集や必要なコミュニケーションを外国語でも行うに関心がある。

<p>学部等名 工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>工学部機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、メディア工学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 機械システム工学科は、機械、電子、システムなどを要素技術として、人間生活の利便性と生活の質を向上させるために、先進的な機械システムを築くことのできる基礎的な知識と技術を有した実践力のある人材の育成を目的とする。学生が、機械の強度設計や性能設計に必要な力学各分野の基礎知識の理解のもとに、機械や機械システムの設計の基本原理と各種機械要素の機能や原理、材料選択や製造加工など設計や製作のための基本的な知識と技術の修得と機械の性能や安全性について判断や評価ができる基礎的な知識を身につけることを、教育研究上の目的とする。</p> <p>(2) 電気電子工学科は、電気、電子、情報通信技術の基礎を確実に修得し、急速に進歩する電気電子工学分野の産業の発展を担う信頼感のある技術者の養成を目的とする。学生が、電気回路及び電磁気学に関する基礎的な知識を修得した上で、電気系科目では電気機器及び電力ネットワークの基礎知識を、電子系科目では電子デバイス、集積回路など半導体の基礎知識を、情報系科目では組み込みシステムや画像信号処理の基礎知識を、通信系科目では通信システム、無線通信の基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。</p> <p>(3) 情報工学科は、高度に並列分散化しネットワークで結ばれた時代に即応できる情報システムの設計、実装、運用に携わる人材の育成を目的とする。学生が、情報システムの基本構成と基本要素について理解し、プログラミングとソフトウェア開発、情報処理環境の機能と運用、情報処理技法の設計と評価、情報と計算に関する形式的記述と論理的思考、ハードウェアやソフトウェアの設計と製作、分散システムの設計や開発に関する基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。</p> <p>(4) メディア工学科は、情報通信技術を情報の媒体と捉えた応用システムの考案、開発を担うメディア技術者の養成を目的とする。学生が、情報技術の基礎的な知識と技能を修得し、ネットワークの構築と運用やアプリケーションソフトの開発、コンテンツ制作のための基礎能力とデザイン能力、メディア情報処理システムの設計や開発などのメディアテクノロジーとメディアデザインに関する基礎知識を身に付けることを、教育研究上の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>機械システム工学科</p> <p>工学部機械システム工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）を授与します。</p> <p><学修成果（教育目標）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、機械・ロボット工学と情報工学の基本技術を活用できる。 2. メカトロニクス分野、ロボティクス分野、自動化システム分野のいずれかの一つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。 3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。 4. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。 5. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

電気電子工学科

工学部電気電子工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、電気電子工学の基本技術を活用できる。
2. 制御・メカトロニクス分野、エレクトロニクス分野、通信分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
4. 修得した知識や技能に基づき、自らが発見した新たな課題を解決できる。また、未来について創造的な考え方を発信することができる。
5. グローバル化が進展する社会で活躍するために不可欠な言語力、モラルに則って情報を収集・活用する能力、他者と協調して目標実現するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ精神を身につけている。
6. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
7. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

情報工学科

工学部情報工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、情報工学の基本技術を活用できる。
2. 数理的な基礎思考力とコンピュータで利用するためのハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を身につけている。
3. コンピュータエンジニア分野、システムソフトウェア分野、ウェブ・ネットエンジニア分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
4. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
5. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
6. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる、統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

メディア工学科

工学部メディア工学科は、教育研究上の目的に基づき、定められた課程を修得し、関連分野の研究テーマに関する卒業論文を作成・提出し、その研究内容を発表し審査を受けて、合格に達した者に対して学士（工学）の学位を授与します。

<学修成果（教育目標）>

1. 工学における基礎知識を有し、社会の要請に応えるために、メディア工学の基本技術を活用できる。
2. メディア技術分野、メディアデザイン分野、メディアアート分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連専門分野の基礎力を有し、自立的に応用展開を図る能力を身につけている。
3. 工学の知識と技能を用いて、社会に貢献できるエンジニア基礎力を身につけている。
4. 技術者あるいは研究者としての自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
5. 幅広い視野から物事を捉え、深い思考と的確な判断を下すことのできる統合された知の基盤としての十分な教養を身につけている。

6. メディア技術が社会に及ぼす影響を適切に理解し、職業人・家庭人・地域住人として、それぞれが置かれた立場で、様々な分野の関係者と協同して、地域社会の課題に取り組み、健全で持続可能な社会運営に貢献する意志と能力を身につけている。
7. エネルギー・資源・環境・格差・紛争等の問題に直面するグローバル社会の状況を適切に理解し、異分野・異文化と協同して諸問題に取り組む意志と能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

機械システム工学科

工学部機械システム工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。機械システム工学科における教育課程の履修・単位取得により、メカトロニクス、ロボティクス、自動化システムに必要な知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、機械工学と制御技術を学ぶメカトロニクス系、工学理論と生命体の構造知識を学ぶロボティクス系、総合生産システム構築知識・技術を学ぶ自動化システム系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及び総合系を配置する。これら専門科目により機械システム工学の基本技術を修得する。
5. 卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1年次からの継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。
6. 1年次で20単位、2年次で32単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3年次で38単位の必修科目の学部固有科目修得とプロジェクト研究基礎演習・プロジェクト研究応用演習の単位修得を4年次への進級要件とする。
7. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。

電気電子工学科

工学部電気電子工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。電気電子工学科における教育課程の履修・単位取得により、制御・メカトロニクス、エレクトロニクス、通信に必要な知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、電気・システム制御技術を学ぶ制御・メカトロニクス系、半導体・電子工学

技術を学ぶエレクトロニクス系、通信・電波技術を学ぶ通信系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系および、総合系を配置する。これら専門科目により電気電子工学の基本技術を修得する。

5. 1年次で12単位、2年次で32単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3年次で36単位の必修科目の学部固有科目修得と電気電子工学実験2の単位修得を4年次への進級要件とする。
6. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。
7. 卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1年次からの継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。
8. 教職資格については、高等学校教諭一種・工業の教員資格取得を可能とする。
9. 工業高校からの入学者、高等学校段階で理数科目を十分に履修していない学生のために、物理及び数学の基礎を固める科目を配置し、春学期、秋学期の両方に開講する等、高等学校の学習から大学教育への円滑な移行を助ける。
10. プロジェクト

情報工学科

工学部情報工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。情報工学科における教育課程の履修・単位取得により、コンピュータエンジニア、システム・ソフトウェアエンジニア、ウェブ・ネットエンジニアに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、ソフトウェア開発技術を学ぶコンピュータエンジニア系、情報システム技術やネットワーク技術を学ぶシステム・ソフトウェアエンジニア系、ウェブ工学や通信技術を学ぶウェブ・ネットエンジニア系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及び情報工学の総合系を配置する。これら専門科目により情報工学の基本技術を修得する。
5. 1年次で12単位、2年次で16単位の必修科目の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。3年次で54単位の学部固有科目修得を4年次への進級要件とする。
6. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。
7. 卒業要件となる研究は、プロジェクト系において、1年次からの継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

メディア工学科

工学部メディア工学科では、教育研究上の目的及び学位授与の方針に基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

＜専門教育課程の構成＞

基礎学力を基盤として、専門知識を基礎学力の上に体系的に構築できるようにし、さらに、履修モデルを提示することにより、専門領域の位置づけとその領域に関連する職業選択を明確にするカリキュラム編成とします。メディア工学科における教育課程の履修・単位取得により、メデ

メディア技術、メディアアートに必要となる知識と技術の修得を可能とします。

1. 授業は、一般教養として、「全学共通科目」、工学専門として、「学部固有科目」を設定する。
2. 学部固有科目は、学部内の工学の基礎としての「工学基礎科目」と、専門性を重視した「学科基幹科目」と「学科展開科目」を配置する。
3. 学部共通科目として、数学系、リテラシ系、キャリア支援系、コンピュータ系、プロジェクト系の科目を配置する。
4. 専門科目群は、プログラム開発と音響・映像に対する応用技術を学ぶメディア技術系、情報コンテンツやデジタルアートの制作技術を学ぶメディアアート系、体験型学修により工学基礎力を養う実験・演習系及びデザイン系を配置する。これら専門科目によりメディア工学の基本技術を修得する。
5. 学外での社会活動を体験し、また様々な分野と協同して、主体的に課題を発見しメディア技術を活用して取り組むことで、地域社会の課題に対するメディア技術の役割を学ぶ。
6. 留学生との交流及びメディア技術を活用した海外との交流を通じて異文化と協同し、主体的に課題を発見し取り組むことで、グローバル社会の諸問題に対するメディア技術の役割を修得する。
7. 1年次で16単位、2年次で40単位、3年次で54単位の学部固有科目修得を次年次への進級要件とする。
8. 「学部固有科目」は90単位、「全学共通科目」は34単位、合計124単位の修得を卒業要件とする。
9. 卒業要件となる研究は、1年次からのプロジェクト系の継続的科目により研究能力を培い、4年次における論文作成と研究発表に至るまでを指導する。卒業研究を実施することにより、学部固有科目で学んだ課程を総合的に学修する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

工学部においては、基幹分野に関する基本的な知識の理解と技術の獲得と、豊かな創造性の涵養を図るために、工学系分野に興味・関心を持つ人を積極的に受け入れます。

高等学校において関連の教科、科目を幅広く学び、大学での学修に必要な基礎学力を有していること、学修活動、各種技術の習得において自己の研鑽を積み、実績を挙げていることを基本方針として、本学部では、数学と理系科目を重視した学力試験に合格した志願者とともに、課外活動を通して工学に関わる資格、実績などを有する志願者を受け入れます。「教育研究上の目的（理念・目的）」にある人材を輩出するため、以下に示す能力と意欲のある人を広く求め、受け入れます。

<入学者に求める知識・技能・意欲・態度>

1. 一般選抜として、数学を重視した入学試験を実施し、その他の選抜として、理系学力以外に工学分野に関連する資格や実績を有する人の推薦入試を実施します。具体的に必要となる学力として、数学については、「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B」の十分な理解が重要であり、システム・機械・電気系の分野では「数学Ⅲ、数学活用」の学習も望まれます。また、推薦入試においては、論理的思考の基本が必要となるため、基本的な作文力として国語における論述技術や表現力が重要です。
2. 各学科では、以下の能力と態度を有する人を受け入れます。
 - ・機械システム工学科は、機械・ロボット工学と情報技術を活かした実践力を持つ技術者を養成する人材に適し、ものづくりの創意工夫に関心があり、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。
 - ・電気電子工学科は、電気、電子、情報、通信技術を活かした実践力を持つ技術者を養成する人材に適し、好奇心を持ち実験とその洞察に関心があり、自ら設定した課題を遂行する意欲を有する人を募集します。
 - ・情報工学科は、ソフトウェア開発、ネットワーク設計・構築・運用、情報システムのハードウェアやソフトウェアの設計、実装及び運用に携わる技術者養成に適した人材を求めて

おり、論理的構成を積み上げることに興味があり、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。

- メディア工学科は、デジタル技術を活用した創造的活動及びメディア工学技術の応用研究に興味があり、かつ、デザインやマネジメント等の活動にも関心をもつ、現代の幅広いニーズに応え得る技術者養成に適した人材を求めており、自ら設定した課題について遂行する意欲を有する人を募集します。

<p>学部等名 スポーツ科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>スポーツ科学部は、組織として研究対象とする中心的な学問分野をスポーツ科学分野とし、当該分野における教育・競技・健康にまたがる諸科学の総合的な教育研究を通して、科学的方法に基づくスポーツや心身の健康に関する専門的な知識や技術を涵養するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を兼ね備えた有為な人材を養成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。また、スポーツ科学部が設置するスポーツ教育学科、競技スポーツ科学科、スポーツ健康科学科の人材養成の目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) スポーツ教育学科は、体育学分野及び健康科学分野に関する専門的な知識を修得したうえで、その知識を統合的に理解・応用することができる能力と、心身の発達段階に対応した実践指導能力及び課外活動指導能力を身に付けた人材を養成する。</p> <p>(2) 競技スポーツ科学科は、スポーツ科学に関する知識を修得したうえで、スポーツ・パフォーマンス向上のためのトレーニング科学やコーチング科学に関する知識とそれを実践的場面で応用する技法を有した人材及びスポーツ関連組織等の運営に関する実践能力を有した人材を養成する。</p> <p>(3) スポーツ健康科学科は、スポーツと健康科学に関する専門的な知識を習得したうえで、健康づくり運動やレクリエーションスポーツの実践力や指導力を有した人材及び健康科学の観点からスポーツ・パフォーマンスをサポートすることができる能力を有した人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html）</p>
<p>（概要）</p> <p>スポーツ教育学科</p> <p>スポーツ科学部スポーツ教育学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。</p> <p><学修成果（教育目標）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。 2. スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。 3. スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。 4. スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。 5. スポーツの指導力を身につけている。 6. スポーツと教育に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。 7. 専門的な知識を学校教育に関連づけて活用することができる。 8. 教育現場で必要な教員としての実技指導能力と課外活動指導能力を身につけている。 <p>競技スポーツ科学科</p> <p>スポーツ科学部競技スポーツ科学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。</p> <p><学修成果（教育目標）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。 2. スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。 3. スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。 4. スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。 5. スポーツの指導力を身につけている。 6. スポーツとパフォーマンスに関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。 7. スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニング科学、コーチング科学に関する知識を活

用することができる。

8. スポーツ関連組織等の運営に関する知識や技能を身につけている。

スポーツ健康科学科

スポーツ科学部スポーツ健康科学科は、定められた課程を修め、以下の学修成果をあげた者に対して学士（スポーツ科学）を授与します。

＜学修成果（教育目標）＞

1. 幅広く深い教養を身につけ、高い倫理観を持って総合的に判断することができる。
2. スポーツを通じて建学の精神の四大綱を体得し、高いコミュニケーション能力を用いてリーダーシップを発揮できる。
3. スポーツ科学に関して、教育・競技・健康にまたがる基礎的知識を総合的に身につけている。
4. スポーツの実技力（「できる」だけでなく「わかる」）を身につけている。
5. スポーツの指導力を身につけている。
6. スポーツと心身の健康に関する専門的な知識を活用し、広く社会に貢献することができる。
7. 健康づくり運動、レクリエーションスポーツに関して実践力と指導力を身につけている。
8. 健康科学の観点からスポーツパフォーマンスをサポートする実践力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

スポーツ教育学科

スポーツ科学部スポーツ教育学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

＜教育課程の構成＞

1. 教育課程は、一般教養科目である「全学共通科目」とスポーツ科学の専門科目である「学部固有科目」から構成される。
2. 全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 学部固有科目は、導入科目、基礎科目、基幹科目、応用科目の4科目群に分けて編成する。
4. 導入科目は、スポーツ科学を専門的に学ぶための導入として、基礎科目は、スポーツ科学を総合的に学ぶ科目として配置する。
5. 基幹科目と応用科目は、スポーツ科学の専門性を高める科目として配置し、学部共通科目群と学科開講科目群により構成する。
6. 学科開講科目群は、学校教育、保健体育科教育関連の科目を配置する。
7. 科目履修の順序性を考慮して、履修のための条件を設定する。
8. 履修モデルとして、保健体育科教員や各種スポーツの指導者を目指すスポーツ教育モデルを示す。
9. 学生のキャリア形成に資する教育として、就業体験研修や各種スポーツ現場で実習を行う科目を設置する。
10. 教室外（海外を含む）の施設の見学、体験、報告等を行う事例研究の科目を設置する。
11. 成績評価については、シラバスに到達目標と基準を明記して厳格に行う。

競技スポーツ科学科

スポーツ科学部競技スポーツ科学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

＜教育課程の構成＞

1. 教育課程は、一般教養科目である「全学共通科目」とスポーツ科学の専門科目である「学部固有科目」から構成される。
2. 全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 学部固有科目は、導入科目、基礎科目、基幹科目、応用科目の4科目群に分けて編成する。

4. 導入科目は、スポーツ科学を専門的に学ぶための導入として、基礎科目は、スポーツ科学を総合的に学ぶ科目として配置する。
5. 基幹科目と応用科目は、スポーツ科学の専門性を高める科目として配置し、学部共通科目群と学科開講科目群により構成する。
6. 学科開講科目群は、トレーニング、コーチング、マネジメント関連の科目を配置する。
7. 科目履修の順序性を考慮して、履修のための条件を設定する。
8. 履修モデルとして、パフォーマンス向上のための科学的知識とそれを実践する技法を学ぶ競技スポーツモデルと、スポーツ関連組織等の運営について学ぶマネジメントモデルを示す。
9. 学生のキャリア形成に資する教育として、就業体験研修や各種スポーツ現場で実習を行う科目を設置する。特に初年次に、学生が自身の将来の方向性や生き方について考えるきっかけを提供する科目を配置する。
10. 教室外（海外を含む）の施設の見学、体験、報告等を行う事例研究の科目を設置する。
11. 成績評価については、シラバスに到達目標と基準を明記して厳格に行う。

スポーツ健康科学科

スポーツ科学部スポーツ健康科学科の教育課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、以下に示す教育課程を編成し、実施していくこととします。

<教育課程の構成>

1. 教育課程は、一般教養科目である「全学共通科目」とスポーツ科学の専門科目である「学部固有科目」から構成される。
2. 全学共通科目としては、幅広い深い教養と総合的な判断力を培うとともに、論理的思考能力とコミュニケーション能力を磨く。
3. 学部固有科目は、導入科目、基礎科目、基幹科目、応用科目の4科目群に分けて編成する。
4. 導入科目は、スポーツ科学を専門的に学ぶための導入として、基礎科目は、スポーツ科学を総合的に学ぶ科目として配置する。
5. 基幹科目と応用科目は、スポーツ科学の専門性を高める科目として配置し、学部共通科目群と学科開講科目群により構成する。
6. 学科開講科目群は、健康づくり運動、レクリエーションスポーツ、トレーナー関連の科目を配置する。
7. 科目履修の順序性を考慮して、履修のための条件を設定する。
8. 履修モデルとして、生涯スポーツや健康のためのスポーツに関する理論と実践を学ぶ健康科学モデルと競技スポーツ選手を支えるスポーツトレーナーモデルを示す。
9. 学生のキャリア形成に資する教育として、就業体験研修や各種スポーツ現場で実習を行う科目を設置する。
10. 教室外（海外を含む）の施設の見学、体験、報告等を行う事例研究の科目を設置する。
11. 成績評価については、シラバスに到達目標と基準を明記して厳格に行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>）

（概要）

スポーツ科学部では、中京大学の建学の精神である「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に基づき、学術の場とスポーツの場の調和を目指し、スポーツマンシップの四大綱を体得し、科学的方法に基づくスポーツや心身の健康に関する専門的な知識や技能を涵養するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を兼ね備えた有為な人材を養成します。

スポーツ科学は、多様化・複雑化する社会のスポーツに対するニーズに応え、スポーツをアカデミックな観点から総合的かつ専門的に研究する学問であり、その学びのためには、広い視野と知識が求められます。特に、社会人基礎力、科学的思考、実技能力が必要となります。

<入学者に求める知識・技能、思考力・判断力・表現力、意欲・態度>

- ・高等学校等での幅広い教科の科目の学びに加えて、特に、国語力（読解力と表現力）、外国語能力（リーディング、ライティング）、理数系科目（数学、物理、生物等）の基礎知識、保健体育科の実技と理論に関する知識を有している人

- ・スポーツ活動において、自己の研鑽を積み、実績を挙げている人
- ・新たな課題を発見し、それを解決するために自ら考え、行動することができる人
- ・積極的に学ぶことにより、幅広い教養を身につけ、また、スポーツ科学の高度な専門性を追究する意欲をもつ人
- ・研究活動や課外活動、学生生活を通じて、これからの世の中で必要となる知識と能力を身につけ、将来、社会の一員として大きく貢献する意志と意欲を持つ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/about/a3.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文	—	15人	5人	2人	人	人	22人
国際英語	—	8人	6人	人	人	人	14人
国際教養	—	34人	24人	3人	6人	人	67人
心理	—	10人	4人	人	4人	人	18人
現代社会	—	10人	7人	人	人	人	17人
法	—	11人	8人	人	人	人	19人
総合政策	—	12人	3人	人	人	人	15人
経済	—	15人	3人	2人	人	人	20人
経営	—	15人	2人	1人	人	人	18人
工	—	32人	7人	5人	2人	1人	47人
スポーツ科	—	22人	6人	6人	6人	人	40人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		566人				566人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://kenkyu-db.chukyo-u.ac.jp/search/index.html;jsessionid=41B1D04398AA502625D58645CFBD2AEC?lang=ja					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文	210人	207人	98%	830人	874人	105%	若干名	人
国際英語	180人	181人	100%	720人	757人	105%	若干名	人
国際教養	110人	107人	97%	440人	476人	108%	若干名	人
心理	175人	181人	103%	700人	718人	102%	若干名	人
現代社会	265人	264人	99%	1060人	1096人	103%	若干名	1人
法	320人	308人	96%	1280人	1358人	106%	若干名	人
総合政策	220人	228人	103%	880人	931人	103%	若干名	人
経済	320人	323人	100%	1280人	1342人	104%	若干名	人
経営	325人	329人	101%	1300人	1362人	104%	若干名	人
工	320人	312人	97%	1240人	1272人	102%	若干名	2人
スポーツ科	490人	494人	100%	1960人	1999人	101%	若干名	人
合計	2935人	2934人	99%	11690人	12186人	104%	人	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文	213人 (100%)	5人 (2.3%)	182人 (85.4%)	26人 (12.2%)
国際英語	164人 (100%)	1人 (0.6%)	148人 (90.2%)	15人 (9.1%)
国際教養	81人 (100%)	1人 (1.2%)	73人 (90.1%)	7人 (8.6%)
心理	180人 (100%)	13人 (7.2%)	149人 (82.8%)	18人 (10.0%)
現代社会	282人 (100%)	4人 (1.4%)	267人 (94.7%)	11人 (3.9%)
法	334人 (100%)	6人 (1.8%)	297人 (88.9%)	31人 (9.3%)
総合政策	214人 (100%)	1人 (0.5%)	199人 (93.0%)	14人 (6.5%)
経済	313人 (100%)	0人 (0.0%)	292人 (93.3%)	21人 (6.7%)
経営	331人 (100%)	0人 (0.0%)	303人 (91.5%)	28人 (8.5%)
工	286人 (100%)	27人 (9.4%)	251人 (87.8%)	8人 (2.8%)
スポーツ科	476人 (100%)	27人 (5.7%)	383人 (80.5%)	66人 (13.9%)
合計	2874人 (100%)	85人 (3.0%)	2544人 (88.5%)	245人 (8.5%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>○授業計画 (シラバス) の作成過程</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学組織である「教育推進センター」委員会において「シラバス入稿時の留意事項」(以下 URL 参照) の作成・学内承認・学内周知を実施 その後、紙媒体の「シラバス入稿時の留意事項」を全教員に対して配布し、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項に関する注意点などを周知 2. 各学部教授会にて「シラバス入稿時の留意事項」をもとに、シラバスの作成と活用に関する FD (シラバスの趣旨・留意事項等の確認、内容充実や活用方法に関する意見交換など) を実施 3. シラバス入稿内容の適切性検証や、その充実を目的に、学部委員によるシラバス第三者チェックを全科目を対象に実施 4. 3月中旬にシラバスを学生及び学外にホームページ上 (以下 URL 参照) にて公開 <p><input type="checkbox"/> 中京大学「シラバス入稿時の留意事項」 https://www.chukyo-u.ac.jp/on_campus2/kyomu/pdf_2019/syllabus.pdf</p> <p><input type="checkbox"/> 中京大学シラバス https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus</p> <p>○授業計画作成・公表時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画 (シラバス) 作成…12月～1月 ※科目担当者が入稿した内容の第三者チェックを2月に実施 ・授業計画 (シラバス) 公表…3月中旬頃 (履修登録の約2週間前)
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
○卒業の認定に関する方針の具体的な内容 卒業の認定に関する方針は、全学ディプロマポリシーを定めるとともに、すべての学部学科（教育プログラムごと）でそれぞれディプロマポリシーを定め、公表（以下 URL）している。				
□中京大学全学ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/pdf/activity/policy/dp/dp01.pdf				
□各学部学科ディプロマポリシー https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html				
○卒業の認定に関する方針の適切な実施状況 各学部において卒業要件（卒業所要単位数、その他要件）を学生便覧にて学生に開示している。卒業認定にあたり、学生の修得単位数等を踏まえ、各学部において卒業判定会議を実施し、卒業可否の原案を審議する。最終的には学長が卒業判定の認定を行う。この点に関しては、各学部において概ね同様の取り扱いをしている。				
・2016年度にガイドラインに基づき全学的に DP の見直しを行った。				
・学部ディプロマポリシーで示した学修成果の項目のうち、各科目がどの要素と関連するのかを示したカリキュラムマップを策定し、公表している。卒業生の単位修得科目の集計と分析を行うことで、学修成果と各科目との関係、ひいてはカリキュラムマップの適切性検証を実施している。				
□カリキュラムマップ https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html				

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文	日本文	124 単位	有・無	単位
	言語表現	124 単位	有・無	単位
	歴史文化	124 単位	有・無	単位
国際英語	国際英語学科 国際英語キャリア専攻	124 単位	有・無	単位
	国際英語学科 英語圏文化専攻	124 単位	有・無	単位
	国際英語学科 国際学専攻	124 単位	有・無	単位
国際教養	国際教養	124 単位	有・無	単位
心理	心理	124 単位	有・無	単位
現代社会	現代社会学科 社会学専攻	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科 コミュニティ学専攻	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科 社会福祉学専攻	124 単位	有・無	単位
	現代社会学科 国際文化専攻	124 単位	有・無	単位
法	法律	124 単位	有・無	単位
総合政策	総合政策	124 単位	有・無	単位
経済	経済	124 単位	有・無	単位
経営	経営	124 単位	有・無	単位
工	機械システム工	124 単位	有・無	単位
	電気電子工	124 単位	有・無	単位
	情報工	124 単位	有・無	単位
	メディア工	124 単位	有・無	単位
スポーツ科	スポーツ教育	124 単位	有・無	単位
	競技スポーツ科	124 単位	有・無	単位
	スポーツ健康科	124 単位	有・無	単位

G P Aの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
 名古屋キャンパス <https://www.chukyo-u.ac.jp/information/facility/g1.html>
 豊田キャンパス <https://www.chukyo-u.ac.jp/information/facility/g2.html>

⑧授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文	日本文 言語表現 歴史文化	1年	825,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	775,000円	円	230,000円	
		3年	785,000円	円	230,000円	
		4年	795,000円	円	230,000円	
国際 英語	国際英語	1年	835,000円	200,000円	320,000円	教育充実費
		2年	785,000円	円	280,000円	
		3年	795,000円	円	280,000円	
		4年	805,000円	円	280,000円	
国際 教養	国際教養	1年	855,000円	200,000円	280,000円	教育充実費
		2年	805,000円	円	240,000円	
		3年	815,000円	円	240,000円	
		4年	825,000円	円	240,000円	
心理	心理	1年	860,000円	200,000円	330,000円	教育充実費、実験実 習費
		2年	810,000円	円	285,000円	
		3年	820,000円	円	285,000円	
		4年	830,000円	円	285,000円	
現代 社会	現代社会	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	755,000円	円	230,000円	
		3年	765,000円	円	230,000円	
		4年	775,000円	円	230,000円	
法	法律	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	755,000円	円	230,000円	
		3年	765,000円	円	230,000円	
		4年	775,000円	円	230,000円	
総合 政策	総合政策	1年	825,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	805,000円	円	230,000円	
		3年	815,000円	円	230,000円	
		4年	825,000円	円	230,000円	
経済	経済	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	755,000円	円	230,000円	
		3年	765,000円	円	230,000円	
		4年	775,000円	円	230,000円	
経営	経営	1年	805,000円	200,000円	270,000円	教育充実費
		2年	755,000円	円	230,000円	
		3年	765,000円	円	230,000円	
		4年	775,000円	円	230,000円	
工	機械システム工 電気電子工 情報工 メディア工	1年	935,000円	200,000円	445,000円	教育充実費、実験実 習費
		2年	885,000円	円	405,000円	
		3年	895,000円	円	405,000円	
		4年	905,000円	円	405,000円	
スポーツ 科	スポーツ教育 競技スポーツ科 スポーツ健康科	1年	890,000円	200,000円	415,000円	特別施設設備費、教 育充実費、実験実 習費
		2年	840,000円	円	370,000円	
		3年	850,000円	円	370,000円	
		4年	860,000円	円	370,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生の修学に係る支援として、学部ごとにオフィスアワー・履修アドバイス制度（成績不良学生への指導方法及び基準）、担任制等のサポートを実施しており、学生に対しては学生便覧や公式ホームページ、ガイダンス等を通じて周知している。また、授業補助者（TA・SA）制度と運用について、授業補助を行うことによる、「当該科目履修生への学修支援の効果」、「TA 従事学生の指導者となるためのトレーニング機会としての効果」の両面から、広義の学修支援と捉え、情報公表している。さらに、外国人留学生を対象に「外国人留学生生活マニュアル」を作成しており、ガイダンスで配布および説明するとともに、実際の学生生活の様々な場面における支援とサポートを行っている。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>入学直後から卒業後の自分を見据えられるキャリア支援を実施。早期に就職への意識を高めるとともに、自己の発見と、将来の進路選択を学生に促している。</p> <p>就職活動や将来の進路を考える上で大切なことは、自分に何ができ、何にやりがいを感じるかを理解【自分を知る】し、社会にはどんな企業や仕事があり、どんな働き方があるかを理解【相手を知る】することである。</p> <p>この【自分を知る】、【相手を知る】ための支援として、独自の情報を発信するホームページ「キャリア・ナビ」、就職活動対策の「各種イベント&ガイダンス」、常駐するキャリアカウンセラーや学生アドバイザーによる「カウンセリング」といった3つのサポートを提供し、これらのサポートを通じて、自ら考え行動できる学生を育成している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 保健室（名古屋キャンパス）と保健センター（豊田キャンパス）の設置。</p> <p>① 保健室、保健センターともに看護師が常駐し、キャンパス内での怪我や体調不良に対応している（保健室、保健センターともに利用時間は平日の9時から17時。土日・祝日は閉室）。</p> <p>② 保健室では、校医による健康相談を月1回実施している。</p> <p>③ 保健センターでは、保険診療体制をとっている。整形外科医が週4日、内科医が月2日診察している。</p> <p>2. 健康提起診断の実施</p> <p>① 毎年3月末～4月初めに、全学生を対象とした定期健康診断を実施している。</p> <p>3. 学生相談センターの設置</p> <p>① 名古屋キャンパスと豊田キャンパスにそれぞれ学生相談センターを設置し、専門の心理カウンセラーが一般相談と心理相談に対応している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.chukyo-u.ac.jp/public_information/a11.html